詳細分布調査報告

三刀屋町の遺跡Ⅱ

飯石・中野地区

1989年3月

三刀屋町教育委員会

例　言

1. 本書は三刀屋町教育委員会が、昭和63年度国庫及び県費の補助を受けて実施した三刀屋町飯石・中野地区及び大字高窪地内遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査の体制は次のようである。

調査主体者	三刀屋町教育委員会　教育長　若槻喜吉（前任）古瀬　明
調査指導者	鳥谷芳雄（島根県教育庁文化課主事）
	蓮岡法暲（島根県文化財保護指導委員）
調査担当者	杉原清一（　〃　）
調査補助員	藤原友子
事　務　局	藤原享夫（三刀屋町教育委員会教育次長）
	高橋良治（　〃　次長補佐）
	太田昌人（　〃　社会教育係長）
	稲田和久（　〃　主任主事）

3. 調査成果は分布図及び一覧表とするほか、個別調査カードを作製して基礎台帳とし、三刀屋町教育委員会に保管して活用する。なお遺跡番号は島根県遺跡地図（1987年）及び前年度の「三刀屋町の遺跡Ⅰ」を踏襲した。
4. 本書及び調査に使用した地図は、調査者の実測によるもののほかは三刀屋町所管に関わる地形図であり、方位は原則として真北を示す。
5. 収録した遺跡のうちには既に消滅したものも含む。また古墓は石塔に着目して調査を行った。
6. 分布調査は踏査による地表の表徴観察であり、埋蔵文化財のすべてが網羅されているとは言えない。従って分布図上の空白地でも将来埋蔵文化財が発見されることもある。
7. 踏査にあたって明治22年編成の字切地図による小字地名のほか史誌・口碑等も参考とした。また多くの方々から協力や情報の提供を受けた。特に調査作業には、終始重富福太郎氏の同行協力を得た。記して謝意を表す。
8. 現存する出土遺物については、保管者名も表記してその所在を明らかにした。
9. 小字地名は「三刀屋城跡調査報告書Ⅱ」に収録した全町域悉皆調査表を用いたが、大字中野地区についてはその資料の編成された明治20年時点で既に統廃合がなされていて史料として不充分なため、今回は「文久２年御検地帳」から田畑地にみられる小字地名を探索して参考とし、これを本書に付表として収録した。
10. 本書は調査者が作成した。

目　次

例　言

遺跡分布図　── 飯石・中野地区、大字高窪 ──

遺跡一覧表 …… 1

概況と主な遺跡 …… 5

1. 大字高窪 …… 5

2. 飯石地区 …… 5

3. 中野地区 …… 12

付. 大字中野小字地名一覧（検地帳） …… 21

挿　図　目　次

図1　後谷古墳見取図 …… 5

2　宮田遺跡 …… 6

3　粟谷遺跡 …… 7

4　古殿遺跡 …… 7

5　遺物図 …… 8

6　森谷出土和鏡 …… 8

7　城砦見取図 …… 10

8　石塔図 …… 11

9　横穴・遺物図 …… 14

10　城砦見取図 …… 15

11　中野鳥屋ヶ丸城跡縄張図 …… 16

12　六重城跡縄張図 …… 17

13　金栗寺跡 …… 18

14　広ノ下荒神塚出土遺物 …… 19

図　版　目　次

PL1　城砦

2　〃

3　石塔

4　寺跡・塚

5　広ノ下荒神塚

6　古墳・横穴

7　同　上　出土遺物

8　同　上　〃

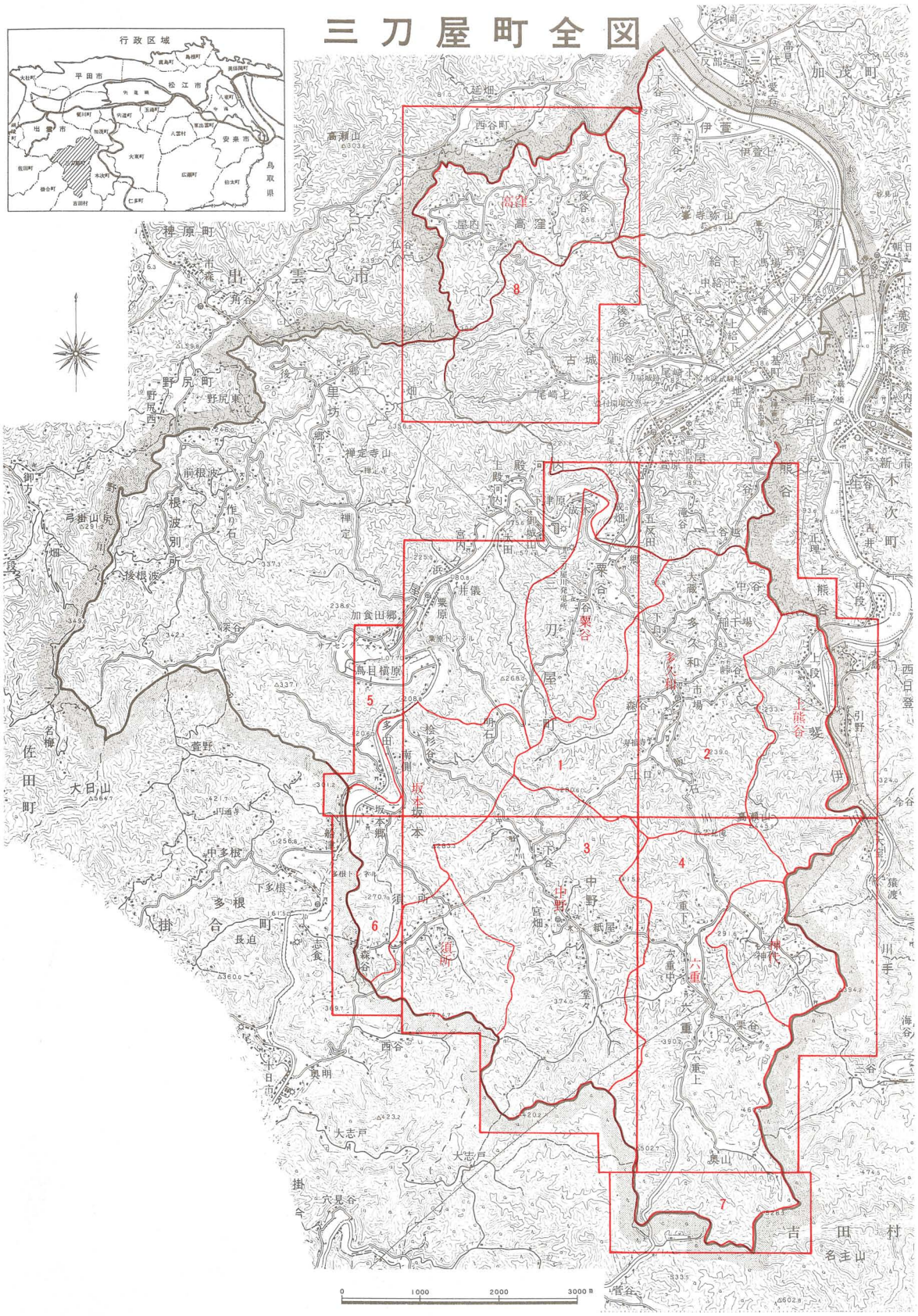
9　遺跡（散布地）各地

10　出土遺物

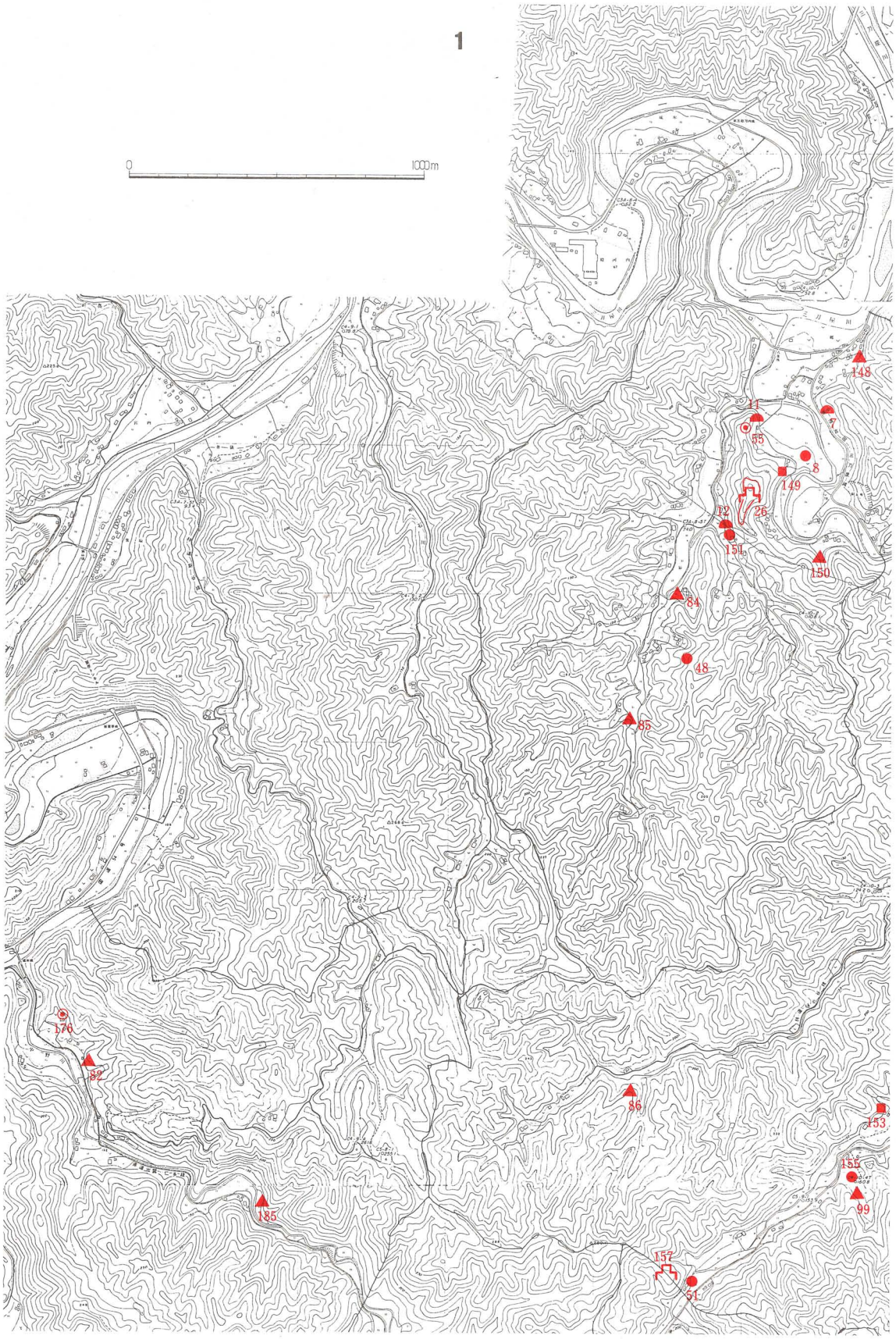
11　製鉄遺跡

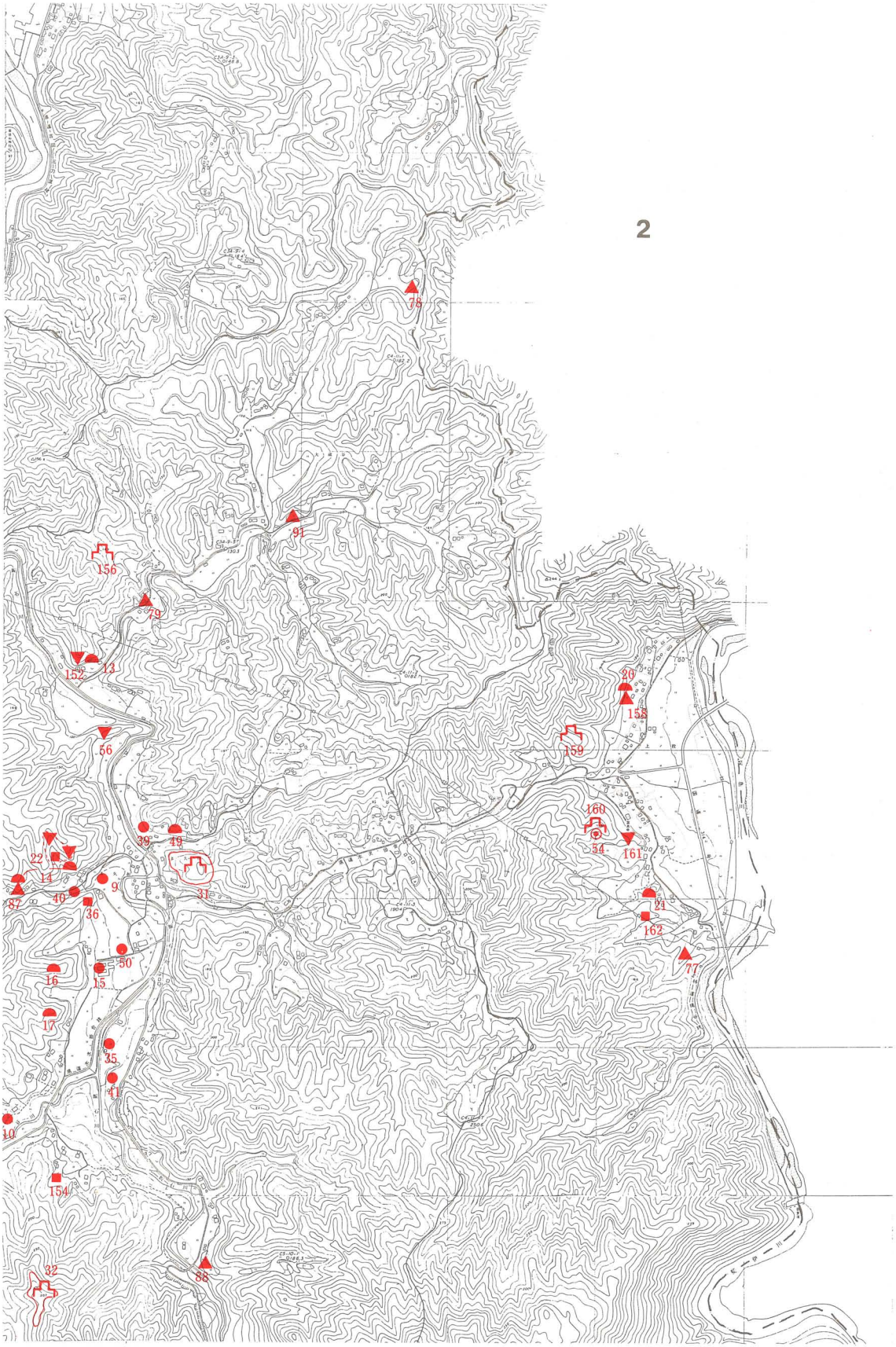
12　宮田遺跡調査より

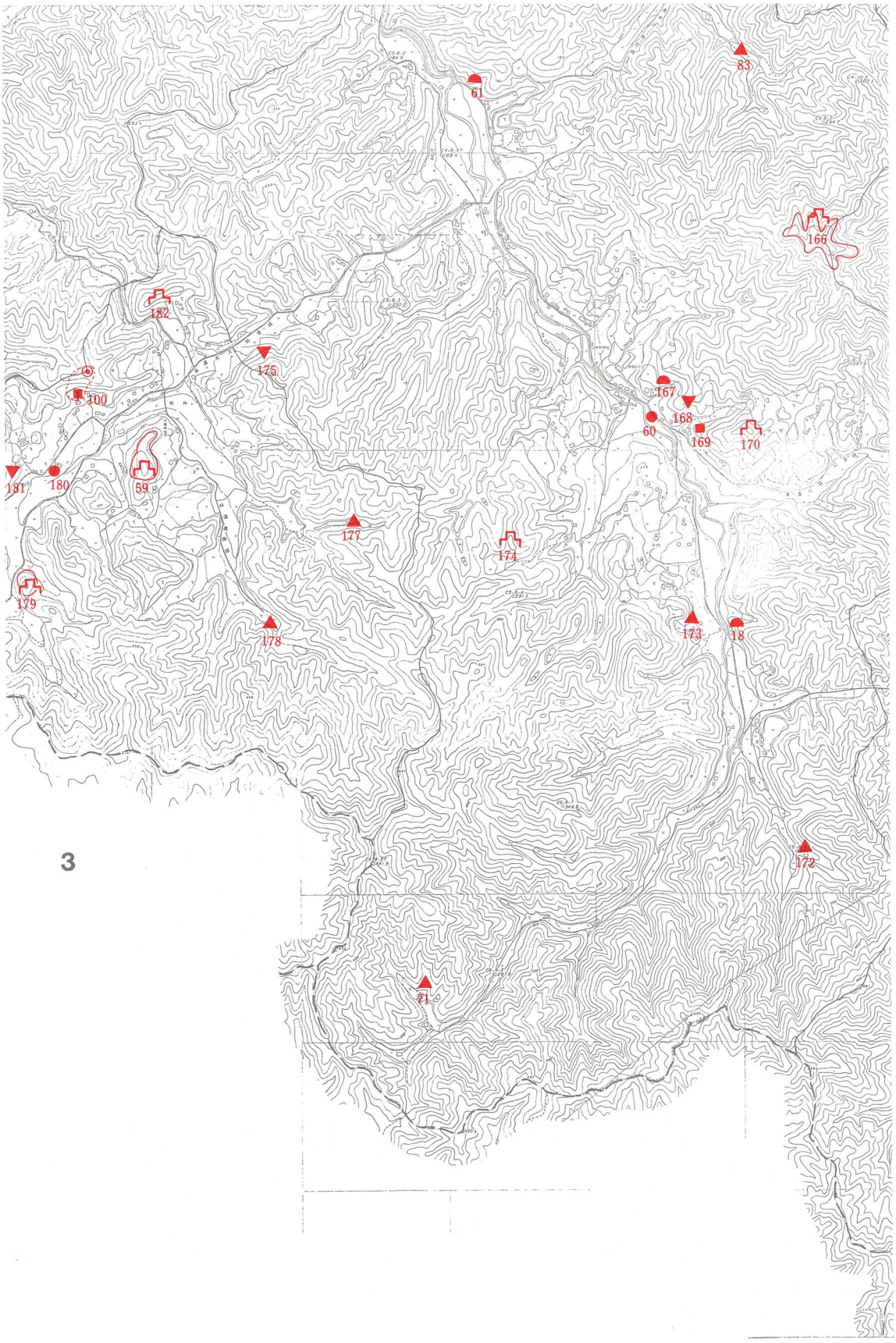
三刀屋町全図



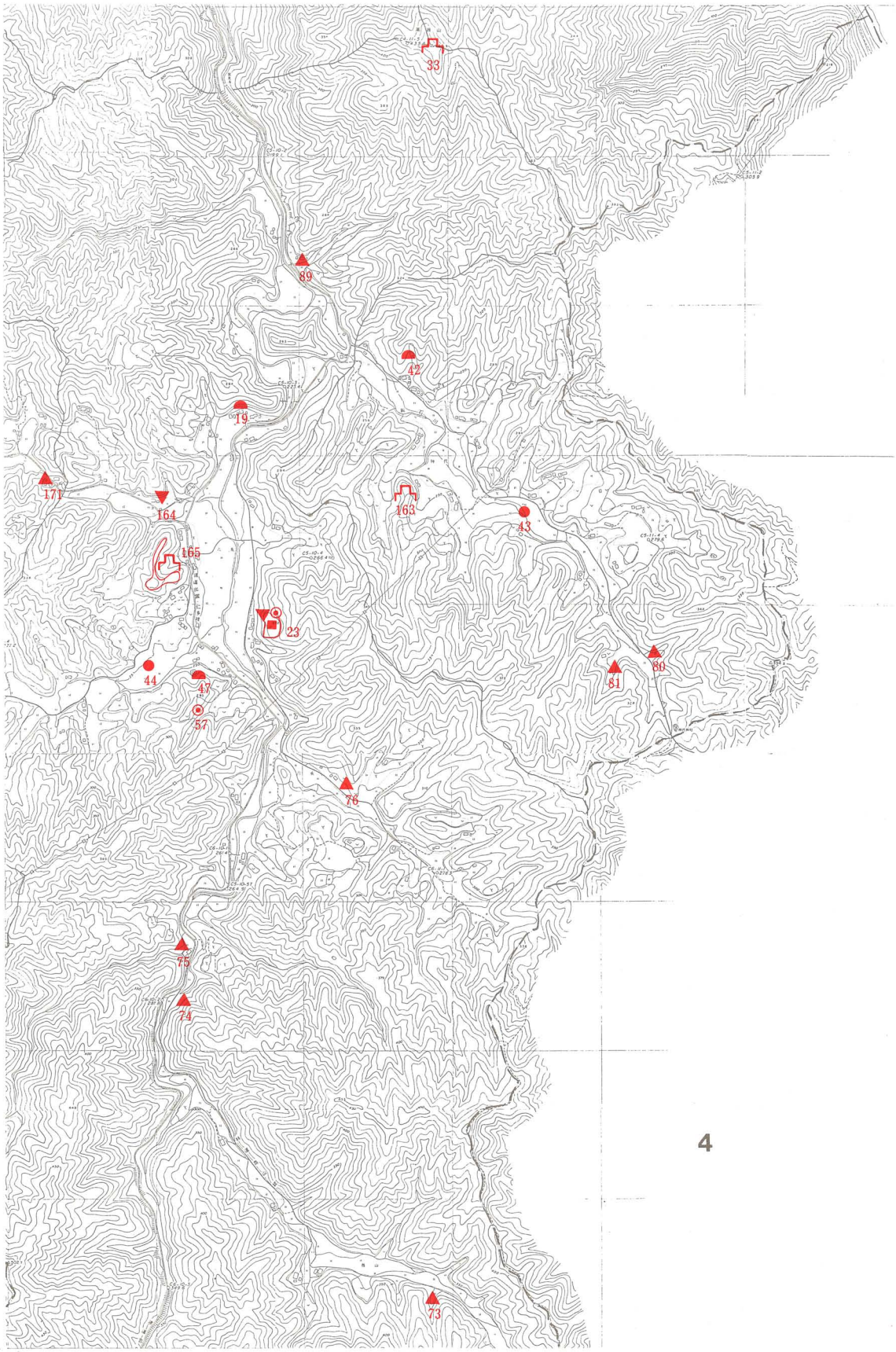
行政区域
平田市
松江市
出雲市
安来市
鳥取県
高窪
古城
粟谷
坂本
須所
中野
六重
神代
上熊谷
1
2
3
4
5
6
7
8
0
1000
2000
3000 m


1
0
1000m
148
11
55
7
8
149
12
26
151
150
84
48
85
176
82
86
153
155
99
185
157
51


2
78
91
156
79
152
13
56
20
158
159
160
54
161
39
49
22
14
9
87
40
36
31
24
162
77
30
16
15
17
35
41
10
154
32
88


83
61
166
182
175
100
167
168
60
169
170
181
180
59
177
174
179
178
173
18
172
71

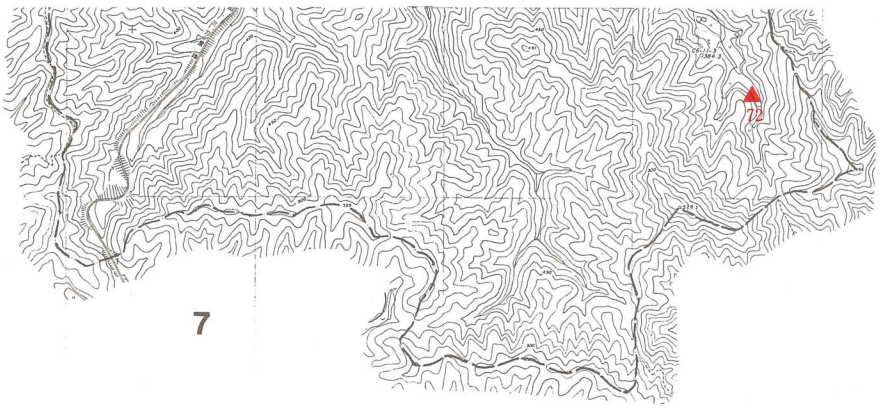
3

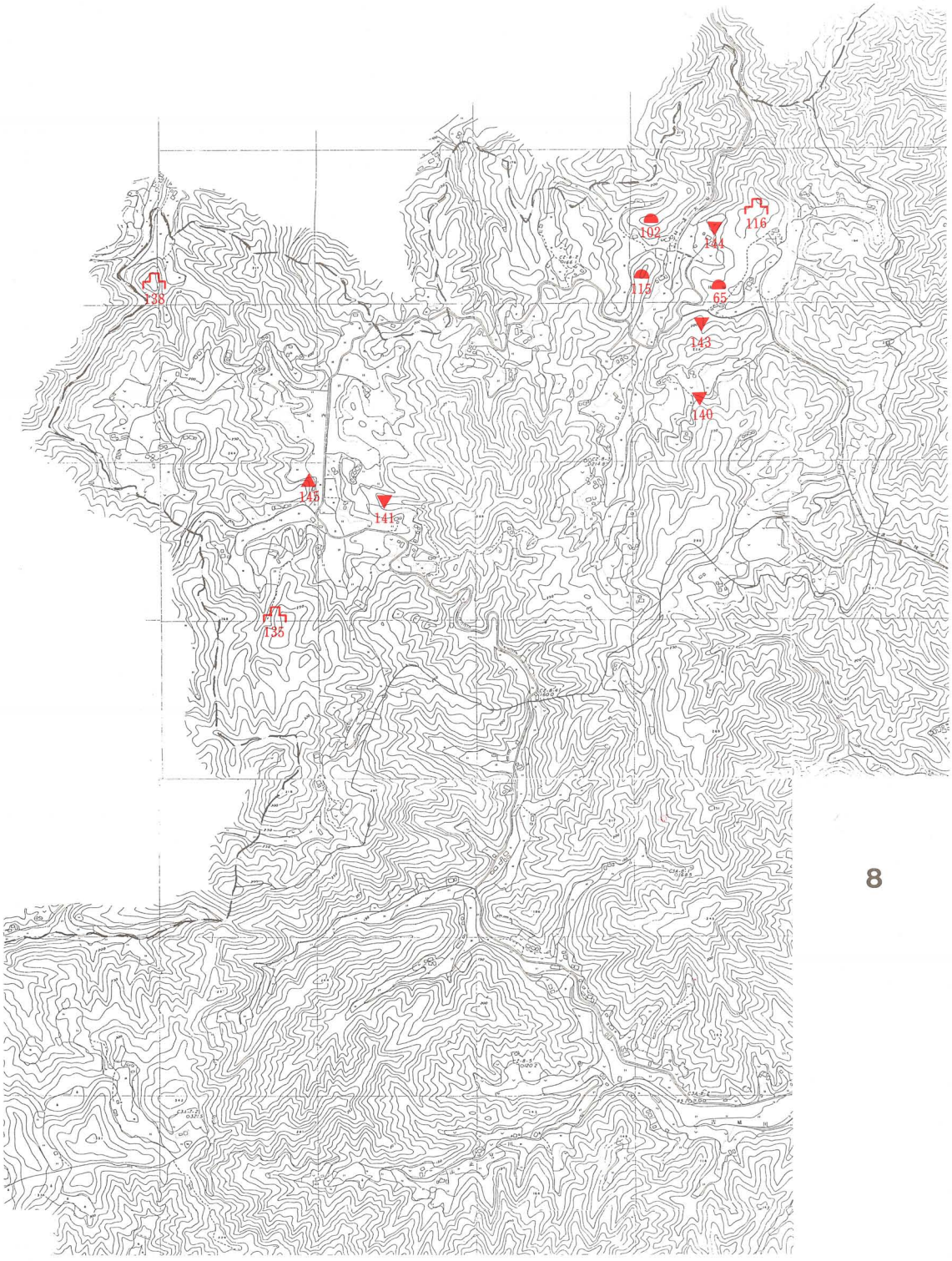

33
89
42
19
171
164
165
163
43
23
44
47
57
81
80
76
75
74
73

5

6

7




102
144
116
138
115
65
143
140
145
141
135

遺跡一覧表

一宮地区

大字高窪

遺跡番号	種別	名称	所在地(小字)	現況	遺跡の概況	遺物保管者
65	古墳	後谷古墳群	蓮池向	山林	1号墳石棺あり・方墳 消滅 2号墳⅔残存・円墳 3号墳未掘・円墳 このほかにもあるか？	
102	〃	苗代迫古墳	苗代迫	〃	丘陵上円墳1基 直径6m	
115	〃	蓮池古墳	蓮池 1403	〃	丘頂に1基、5.5×4mの円墳か 五輪塔集積	
116	城砦	古山砦跡	古山	竹林・他	3段あり 80×40m じゃ山城跡関連の砦の一つ	
135	〃	古以後砦跡	古以後	山林	4段と付属小平面 居館跡か	
138	〃	竹ノ内砦跡	竹ノ内	山林	30×15m 簡易な物見曲輪	
140	古墓	蛇ノ原宝篋印塔	蛇ノ原	原野	旧路沿い独塔 中世後期 他に縄文石皿あり	町教委
141	〃	井の迫の五輪塔	井の迫	山林	丘陵上の旧路沿い 3基以上あり	
143	〃	壁の内古墓	壁の内	〃	墓地の上にあり 数基分の石塔片あり	
144	〃	段家の上古墓	段家の上	畑・雑	台地の端 マウンド上に五輪塔2・宝篋印塔1 やや古いか？	
145	製鉄遺跡	屋内鍛冶屋製鉄跡	鍛冶屋 926	宅地・畑	カジの他に鉚も有？鉄滓散布 付近鉄穴流し跡も	

飯石地区

大字粟谷

8	散布地	粟谷遺跡	向田	水田	縄文～古墳時代 圃場で土器・石器多数出土 消滅	重富福太郎
48	〃	かいろく遺跡	かいろく	山林	土器出土地 横穴か	中学校？
151	〃	城ノ尾下ノ段遺跡	下ノ段 202	畑	古式土師器片出土 部分発掘で柱穴等	町教委
7	横穴	粟谷横穴群	掛ノ前	山林・他	A群3穴 B群1穴 粟谷神社の下・上にあり	町教委
11	〃	大年横穴群	大年	山林・道	道路法面に2穴あり 未掘 他にも有か？	
12	〃	粟谷谷横穴	城ノ尾	水田	水田造成で消滅	若槻栄
26	城砦	粟谷城跡	城ノ尾	山林	山城 200×25m 南へ下降する郭群破損 天文年間？	
84	製鉄遺跡	金井子鉚跡	金井子	畑・牛舎	鉄滓散布 20×20m 敷地造成で破損 時期不明	
85	〃	城木谷鉚跡	城木谷	水田	のろ大塊あり 工事で消滅か 近世	
148	〃	不動堂鉚跡	戸井谷	畑	丘麓台地にあり 12×10m 鉄滓散布 炉材スサ入り	
150	〃	カナクソ鉚跡	カナクソ	水田	山裾部 水田法面に断面がみられる 炉材スサ入り	
149	寺院跡	法尺寺跡	法尺寺	山林	寺跡であろう 小堂 五輪塔あり	
55	経塚	大年経塚	大年	墓地	一石経塚 墓地中央にあり	

大字多久和

9	散布地	宮田遺跡	宮田	水田・史跡公園	縄文時代の墓地等　埋甕他土器・石器県指定　他に古墳時代住居等	町教委 重富福太郎
10	集落遺跡	上口遺跡	船ケ迫	水田	圃場工事で礎石列ありと　土器出土　消滅	
15	散布地	古殿遺跡	古殿	水田・校地	飯石小学校付近　縄文～中世各期 中世館跡も	町教委
35	〃	飯石神社遺跡	飯石神社	社地	須恵Ⅳ期出土	重富福太郎
39	〃	大神谷遺跡	浮田	畑	弥生土器片？出土	
40	〃	森谷川遺跡	森谷	川・畑・田	縄文～弥生石器多数（環状石斧、磨石斧、石皿他）	重富福太郎
41	〃	飯石神社上遺跡	京南	神社飛地	須恵Ⅳ期壺出土	重富福太郎
50	〃	京殿遺跡	京殿	水田	石斧・縄文・須恵・土師片多数包含 圃場で消滅	町教委 重富福太郎
51	〃	福谷川原遺跡	福谷川原671	宅地	石斧2点出土	重富福太郎
155	〃	湯舟遺跡	湯舟	水田	勾玉　須恵器片出土（消滅した横穴か？）	宮崎頼枝
13	横穴	大倉口横穴群	大倉口	山林	2穴あり　2号穴消滅か	
14	〃	森谷横穴群　A群	森谷	〃	3穴あり　1号で須恵蓋坏・坏・坩 3号未掘	重富福太郎
		B群			1穴　メノウ勾玉　刀子　須恵器片 人骨出土	
16	古墳	古殿古墳	古殿	〃	丘陵端　円墳　径7m　墳頂に石あり	
17	〃	古殿今宮古墳	今宮	〃	丘陵端　円墳　径7m　墳頂に石あり	
49	横穴	大神谷横穴	杉廻	私道	1穴　消滅　須恵高坏出土	杉原栄次
31	城砦	多久和城跡	城ノ尾	山林	100×120m　丘山城　1～7連郭式 土塁・堀切有	
32	〃	福谷城跡	福谷	〃	山頂の城　500×300m　3支郭群22郭 堀切・土塁	
33	〃	高瀬山城跡	小原谷	〃	山頂の物見郭か　削平面　15×35m　単郭	
156	〃	梅坊砦（寺院）跡	梅坊	畑・山林	大蔵地区の下口の城戸砦か　寺院跡も	
157	〃	福谷川原上砦跡	福谷	山林	丘頂　20×15m　塹壕～土塁のみ 見張り台か	
56	古墓	清名五輪塔群	古寺	〃	多久和の下口城戸　塔姿良好約30基 寺跡も？	
152	〃	大倉口五輪塔	大倉口	〃	古墓か　塔片が埋没していた	
78	製鉄遺跡	長戸呂鉢谷鉢跡	長戸呂鉢谷	〃	鉄滓散布地　圃場で消滅か	
79	〃	道の下鉢跡	道の下2176	畑・道	鉄滓散布　上方に炉床残存か	
86	〃	樋ノ谷鉢跡	樋ノ谷	山林	鉄滓あり　段地形は炉床か　近世？	
87	〃	森谷鉢跡	森谷	畑	鉄滓・炉壁片（スサ入り）石造の金屋子神祠に初銑	
88	〃	小原鉢跡	小原	山林	野だたら？　金屋子神木あり　遺構残存か	
91	〃	大日鉢跡	大日	畑・道	鉄滓散布	
99	〃	湯舟鉢跡	湯舟	畑	鉄滓散布　金屋子神木・無縁墓あり　近世	
22	寺院跡	法泉寺跡	法泉寺	山林	谷奥で寺跡は崩壊　近くに堂あり 印塔・五輪塔	
154	〃	玉正寺跡	玉正寺	畑	付近に堂あり　小鐘に銘あり	
153	〃	瑞泉寺跡	瑞泉寺	畑	ほとんど崩壊　付近に古墓あり	
36	神社跡	託和神社跡	宮ウ子	山林	明治44年飯石社へ合祀　石段等残存 敷地70×50m	

大字上熊谷

20	古墳	岩広古墳	岩広	宅地	横穴式石室　須恵Ⅲ・Ⅳ期　馬具・鏃・刀子出土	町教委
21	横穴	善王寺横穴	善王寺	〃	水害で発見　消滅　須恵・刀出土したとのこと	
160	城砦	上熊谷蛇山城跡	蛇山	山林	丘陵端　200×60m　6郭　堀切 主郭に経塚有	
159	〃	上熊谷秋葉山砦跡	中村奥	境内・山林	秋葉社を祀る　2段あり　物見台	
161	古墓	林迫荒神古墓	林迫	荒神塚	丘端の塚　五輪塔　龕入宝篋印塔	
77	製鉄遺跡	後の谷鉧跡	後の谷	山林	谷間の小テラス　若干の鉄滓を認む 遺構不明	
158	〃	岩広製鉄遺跡	岩広	畑	小さな鉄滓が若干散布　遺構不明なるも鉧跡である	
162	寺院跡	善王寺跡	善王寺	荒地・畑	18×25mの削平地　かつて観音堂・積石墓あった	
54	経塚	熊谷山経塚	蛇山	山林	蛇山城跡主郭頂部にあり　雲泉寺に関係か	

中野地区

大字神代

43	散布地	神代川原遺跡		?	石斧出土地（現地確認不能）	
42	横穴	神代横穴	砂子田	山林・林道	1穴　須恵Ⅳ期　丹塗土師器出土	小田定雄(町寄託) 高尾繁延
163	城砦	神代砦	堂免470	山林	丘陵端　主郭と4段の付属曲輪　物見砦か	
80	製鉄遺跡	しょうぶ鉧跡	しょうぶ	?	（現地確認不能）	
81	〃	神庭鉧跡	神庭	草地	谷間の舌状地　鉄滓・炉材片散布 遺構残存か	

大字六重

44	散布地	西六重遺跡		畑・水田	水田地帯か　須恵器出土地という （現地確認不能）	
19	横穴	六重横穴	大屋	山林	穴観音の石組みあり　はたして横穴か	
47	〃	六重飯石神社境内横穴	郷戸	境内	須恵蓋坏1合Ⅲ期　1穴のみか　埋没	六重飯石神社
165	城砦	六重城跡	蛇谷	山林	馬蹄形の尾根上に3群の郭配置 200×170m　土塁・竪堀・堀切り	
164	古墓	赤栗古墓	赤栗54	畑	龕入宝篋印塔1　付近に〝穴地蔵〟の石組みあり	
72	製鉄遺跡	鳥越鉧跡	鳥越	水田	（現地確認不能）	
73	〃	奥山軍鉧跡	奥山軍	水田・畑	斜面に鉄滓散布　上の畑に遺構残存か	
74	〃	真砂谷鉧跡	奥山真砂谷	茶園	道路沿いの畑に鉄滓散布	
75	〃	金蔵鉧跡	金蔵	水田・他	丘陵端　70m以上鉄滓散布 近世の大型鉧跡か	
76	〃	栗谷鉧跡	栗谷	?	（現地確認不能）	
89	〃	六重大鍛冶屋鉧跡	大鍛冶屋	宅地	広く鉄滓散布　大鍛冶も併存か 大部分は消滅か	
23	寺院跡	金栗寺跡	金栗寺	茶園・山	150×50m　削平地2段　一石経塚 五輪塔・宝篋印塔あり	
57	祭祀遺跡	策霊山古墓	迫奥256-3	旧畑	石鉢・土師質土器　銭貨　鉄片出土　消滅 中世の修法塚か	須山伊三郎

《他に六重地内出土とみられる石器（磨石・叩石・石斧・石棒）あり。—— 子安観音堂・須山優保管》

大字中野

60	散布地	紙屋遺跡	紙屋	水田	須恵・土師片出土　水田下に包含層あるか	正蔵坊
18	横穴	堂々横穴	堂々	山林	崩れて埋没　2穴か　須恵Ⅳ期の壺・坏・碗・耳環	正蔵坊
61	〃	東下谷横穴群	東下谷	道路法面	1～6号穴　1～3号は古く開口　4～6号人骨・須恵器Ⅲ～Ⅳ期　刀・玉類	町教委
167	〃	正蔵坊横穴	紙屋	畑	1穴　崩壊　須恵Ⅳ期　壺・甕片	正蔵坊
174	城砦	堂々蛇ノ迫砦跡	堂々	山林	1号方8.5m　2号辺9.0m　尾根上にあり	
166	〃	中野鳥屋ヶ丸城跡	北畑・他	〃	山頂の本城　300×200m　5支郭群より構成　合計67郭あり　南裾に麓館あり	
170	〃	トチノ木上砦跡	紙屋	山・竹林	丘陵端　馬蹄形に小郭を配す　鳥屋ヶ丸城出張砦	
168	古墓	向光寺古墓	紙屋	畑	宝篋印塔残欠　下方に堂あり	
175	〃	比久尼塚	西下谷	山林	五輪塔2・宝篋印塔片　伝寺跡の地続き　近世初？	
71	製鉄遺跡	堂々鈩跡	堂々	畑（荒廃）	30×20m　鉄滓多量集積　鎚大塊あり　明治初年まで	
83	〃	中野杉谷野鈩群	東下谷杉谷	水田	（圃場整備により現地確認不能）　炉壁材スサ入り	
171	〃	六重峠鈩跡	紙屋733	畑	7×15m　鉄滓・炉材（スサ入）多数散布　中世？	
172	〃	堂々向谷鈩跡	堂々	山林	圃場水田の下に鉄滓ありと	
173	〃	中竹鈩跡	堂々	畑	崖面に鉄滓堆積　遺構不明	
169	寺院跡	久光寺跡	紙屋	〃	丘陵端　40×25m　畑から礎石（径17cmの柱穴）出土	永井政吉

大字須所

180	散布地	須所土居遺跡	土居	畑	微高台地・須恵・土師器細片散布	町教委
59	城砦	須所八幡山城跡	中山865・866	山林	独立小丘陵　200×100m　主郭・付属曲輪・土塁・他	
179	〃	志源京砦跡	志源京	〃	小丘陵端　50×50m　郭3・竪堀13本　後背部消滅	
182	〃	城ノ谷砦跡	城ノ谷	道・山林	丘陵端　100×50m？　堀切2・郭2以上道で破損	
181	古墓	折屋垣内古墓	折屋垣内	墓地	旧荒神塚　道路で消滅　五輪塔残欠	
177	製鉄遺跡	堤尻鈩跡	堤尻西平	水田・他	かつて鉄滓散布　道路・圃場で消滅か	
178	〃	奥山本谷鈩群	奥山本谷	旧水田	谷間の奥3か所あり　鉄滓・炉材多数散布	
100	寺院跡	妙吉寺跡	寺床	畑・山林・他	60×80m　礎石列・碑　背陵上に一石経塚あり　法華宗本坊として著名	

大字坂本

183	散布地	坂本宮ノ前遺跡	宮ノ前	畑	20×20m？　土師器片　鉄滓もあり　内容不明	
82	製鉄遺跡	桧杉谷鈩跡	鈩	荒畑	20×50m　鉄滓・炉材多数散布　近世の大型鈩跡か	
185	〃	桧杉谷鈩床鈩跡	鈩床	畑	30×40m　丘麓台地　鉄滓・炉材散布　野鈩様式か	
176	祭祀遺跡	広ノ下荒神塚	広ノ下	山林	石鉢・鎧大袖・土師質土器・宗銭出土　消滅	渡部繁義
184	〃	的場積石塚	胡麻畑？	〃	丘陵最頂部　6×12mの集石（川石）塚　矢の的と伝う	

概況と主な遺跡

1．大字高窪（一宮地区のうち）

遺跡は後谷集落に多くみられた。古墳は延山神社付近の丘陵上３か所に認められ、特に群をなす後谷古墳群がある。

中世の砦跡は町界の稜上に簡易な物見的性格のものが設けられており、三刀屋氏の出張りと思われる。また集落に近く古墓も点在しており、中世の居住区域が思われる。

製鉄遺跡もあるが中世か近世かは不明であった。

後谷古墳群（図１）：延山神社後背丘陵にあり、旧鉱山のトロッコ道を作るとき（昭和22年）１号墳が破壊された。さらに２号と稜上の３号が認められる。１号は山根大二氏の記録があり、概ね次のようであった。墳丘は一辺約20m の方墳で２段に築成され、主体部は袖無式横穴石室で長さ約８m、奥から３m に柱石があって玄室に区別している。玄室には石棺が置かれている。棺の床石小口には縄掛突起があって長持型石棺であったとみられ、出雲山間には珍しく、格別な身分の被葬者であったと思われる。

２号は直径９m の円墳で約⅔が残り、３号は約10m の円墳で、ともに未掘である。

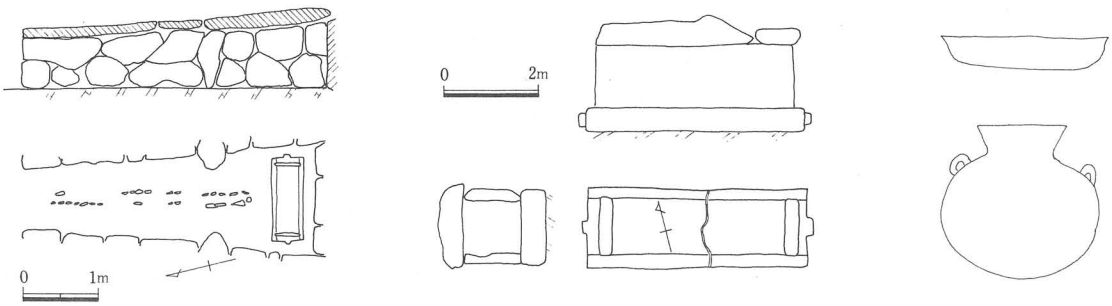


図1．後谷古墳見取図　（昭和22年　山根大二氏原図を修正）

2．飯石地区

遺跡の分布は各大字の中心部に集中する傾向があり、特に多久和では密である。製鉄遺跡は南寄りの山間～谷間に散在する。

大字粟谷についてみると、丘麓～飯石川沿いに縄文～奈良時代（粟谷）・古墳時代（城ノ尾下ノ段）等の遺跡が、丘麓には横穴が認められる。南谷間に入ると金井子・城木谷にたたら跡があり、集落近くではやや古いと思われるカナクソ・不動堂鈩跡が認められる。粟谷城跡は破損が著しい。

大字多久和では、その中心部水田地帯はほとんどが縄文～奈良時代の遺物散布地であり、特に縄文の埋甕の出土した宮田遺跡は県指定史跡として著名である。また磐座を祀る飯石神社付近は、奈良時代の遺物が出土するところでもある。西側山腹には古墳や森谷には横穴群もあり、古代の人跡が著しいところである。大蔵でも入口部は同様な傾向が認められる。しかし近年の圃場整備によってその多くは破損～消滅した。中世についてみると、山頂の山城である福谷城、それに続く丘城の多久和城は中心的な城郭であり、それに付属する砦跡や古墓・寺院跡等も多い。多久和上口～下口は一つの城域としてのまとまりであり、大蔵地内は梅坊砦あたりを下口とする別のまとまりとみられる。森谷・福谷等の谷間に入ると製鉄跡が散在するが、損壊したところが多い。

大字上熊谷は斐伊川に面した別区域であり、丘端～丘麓に遺跡が散在する。岩広古墳や善王寺横穴の古代遺跡や、中世では多久和越しの往還に面した上熊谷蛇山城跡とその付近の砦・古墓・寺院跡がある。このうち林迫荒神古墓には龕入宝篋印塔があって、特別の古墓と思われる。

宮田遺跡（図２）：県指定史跡・考古資料。主として縄文時代。昭和54年発掘調査で１対の埋甕や土壙・貯蔵穴等と縄文中～晩期の土器・石器多数を検出した（Ⅳ区）。Ⅰ～Ⅲ区で

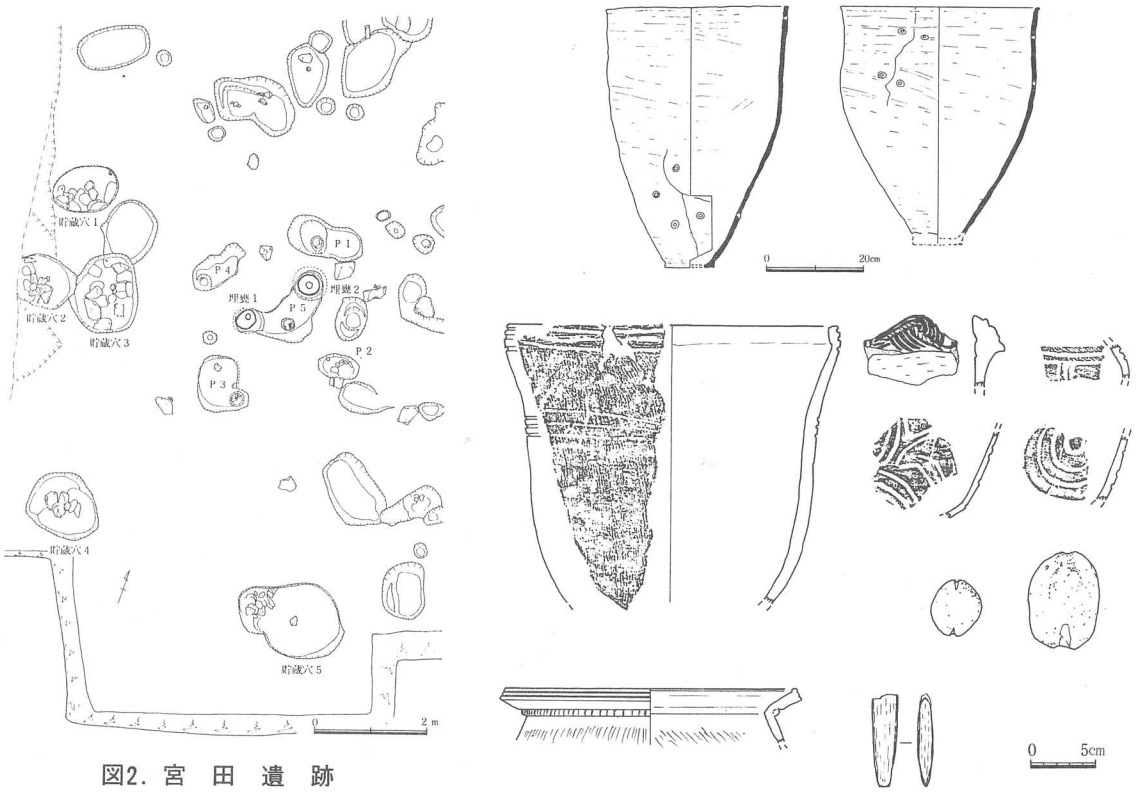


図2. 宮　田　遺　跡

は弥生中期～古墳時代の土器や柱穴群があり、長期間にわたる古代の居住区域であった。Ⅳ区は史跡として埋戻し保存、他は圃場整備で損壊した。

粟谷遺跡（図３）：縄文～奈良時代の遺物散布地。粟谷神社前の河岸段丘にあり、圃場整備工事に際し縄文後期後半以降各期の土器片や石器等が採取された。特に奈良時代かとみられる製塩土器片が確認されたことは注目される。遺構は不明。ほとんど消滅。

城ノ尾下ノ段遺跡（図５）：古墳前期及び室町時代。粟谷城跡の西麓。局部的な発掘調査により古墳時代前半期の甕やそれに伴うと思われる柱穴列があり、重複して室町期後半かとみられる大型柱穴列や若干の青磁片・古銭が出土した。特に三刀屋町内には数少ない古墳時代前半期の遺跡である。

図3. 粟　谷　遺　跡

古殿・京殿遺跡（図４、５）：縄文～中世各期の遺物散布地。飯石小学校付近一帯で、山寄りが古殿で中間より前方の段丘地が京殿である。昭和54年部分的な発掘調査で中世居館とみられる建物跡や陶磁器・飾金具、硯等が検出された。また昭和59年に小学校に隣接して幼稚園が建築された時大型の柱根が出土しているなど、かなり広い区域にわたるものとみられる。遺物は水田耕土下に厚く包含されていたが、圃場整備によってかなり旧地形が変わり、また攪乱損傷しているとみられる。

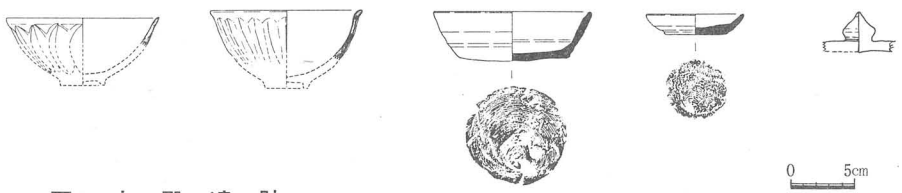


図4. 古　殿　遺　跡

粟谷横穴群：粟谷神社下の駐車場に面して３穴と、境内社の稲荷神社上方の山腹に１穴あり、粟谷遺跡（散布地）を眼下にする位置である。開口はかなり古く出土遺物は須恵大甕片１個のほかは不明である。横穴はいずれも便化した断面三角形妻入型のようであるが、剝落変形が著しく明確でない。古墳時代末期ごろであろうか。

森谷横穴群（図９）：森谷入口部北側の急峻な山腹にあり、Ａ群３穴とＢ群１穴がある。Ａ群１号穴からは多くの遺物が出土し保管されている。２号穴は落盤埋没。３号穴は未掘。Ｂ群１号穴は現在半埋没状態であるが、かつてメノウ勾玉・須恵器片・刀片・人骨などが出土した。Ａ１号穴についてみると、断面三角形妻入りの便化した型で、須恵蓋坏・坏・坩があり、古墳時代末期と知れる。また和鏡も出土している。古くから開口しており、この横穴を中世には修法の場としたことによるのであろうか（図６）。

古殿・古殿今宮古墳：多久和中心部の西に張り出す２支丘陵の各突端に位置する。いずれも直径約７ｍの小形の円墳で、頂丘上に石が数個置かれている。未掘。主体部未詳。

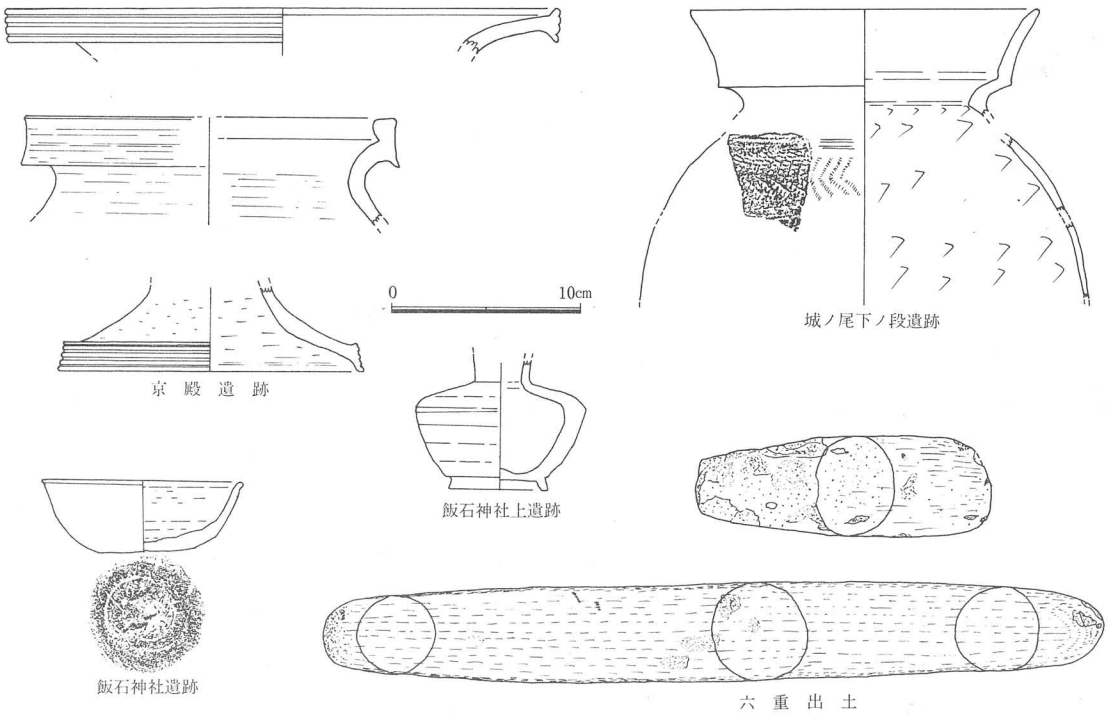


図5．遺　物　図

岩広古墳：斐伊川の西側丘麓にあり、昭和６年発見破損した。墳形は不明であるが横穴式石室の主体部で多くの遺物が出土した。須恵器・蓋坏（Ⅲ・Ⅳ期）・広口坩・提瓶・脚付盌・刀・刀子・鉄鏃・轡片など副葬品は豊かである。土器からみて追葬が行われたもののようで、古墳時代後期・末期にあたる。現在奥壁の一部のみが残存している。

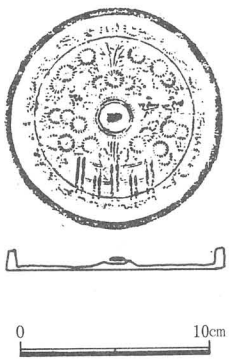


図6．森谷出土和鏡

粟谷城跡（図７）：粟谷の中央へ舌状に張り出す丘陵の頂部に構えた城跡で、飯石川が三刀屋川に合流する地点を眼下にし、約200m の範囲である。主郭は37×16m で秋葉社と大山社の碑がある。この南には狭い帯曲輪が一段あるのみだが、南へは３～４段の狭い曲輪が連らなり下降していたようだ。現在は重機による登路造成で旧状は計り難いほど破損している。このあたりにおそらく堀切り・土橋等の構造があったと推察される。そして尾根を大きく切断した大堀切り部分を、現在の町道が峠越しして通じている。遺構の主要部位が大きく損壊したことは残念である。文献によると地侍の粟谷氏の拠ったところで天文年中に落城したとある。また皇国地誌等には〝城ノ尾山〟と記載している。

上熊谷蛇山城跡（図７）：斐伊川沿いから多久和方面へ峠越し往還の入口部に対する構えで、ほぼ北に向って張り出す丘陵上約200m に設けている。尾根を大きく堀切りで切断し、その近くの稜線は削り出した切岸とし、長さ13m の主郭と18m の第２郭が主で、主郭には腰曲輪が付属する。主郭にはのちに一字一石経塚を造営している。さらに尾根筋を辿ると先端には物見郭があり、荒神塚を祀る。また往還を挟んで北の独立した丘頂部には秋葉神社のある削平地があり、これも付属の物見郭とみられる。この城跡に関する口碑・文書等は見当たらないが、多久和城の支城と考えられる。

多久和城跡（図10）：多久和の中心部である字市場を眼下にする低丘陵の端部に構えた城跡で、西前方へ下降する郭配置である。東西150m 南北120m の連郭式に近い構成、郭は第１～第７郭あり、第３郭は馬出曲輪、第３・第４郭には土塁を設け、主郭の東後背部は深く大堀切りによって切断区画している。また西最下段の第７郭には大手筋の城戸跡がある。縄張りからして時代は16世紀に下るものであろう。

この多久和城跡に近い〝市場〟を中心とする〝上口〟〝下口〟の地名から、多久和本郷は近世的な城下集落形成の初源的な姿が想像される。

またこの城跡は、南へ三刀屋、北へ吉田村、東は熊谷を経て仁多郡への往還の三叉路に位置し、それぞれに出張り砦を設けていたとみられる。

文献には多く登場し、元亀元年（1570）秋上伊織介居城するを毛利方の小早川・吉川が攻めて落城したと記している。多久和城下口城戸である。清名には五輪塔群（図８）がある。

福谷城跡（図７）：多久和から西へ中野掛合方面へと南吉田方面への往還の分岐する地点の南に高く張り出す展望に優れた山陵の尾根上に、ほぼ馬蹄形をなす郭配置を行っている。南方尾根続きは大きく堀切りで切断し、最高所の主郭から左右及後背部に広い郭を副える。さらに北へ分れて延びる尾根端に３～４段の物見郭を設ける。主な郭の南～西側にはそれぞれ土塁を築き、特に南側後背郭群の西側に馬出し曲輪状の小さな曲輪が注意を

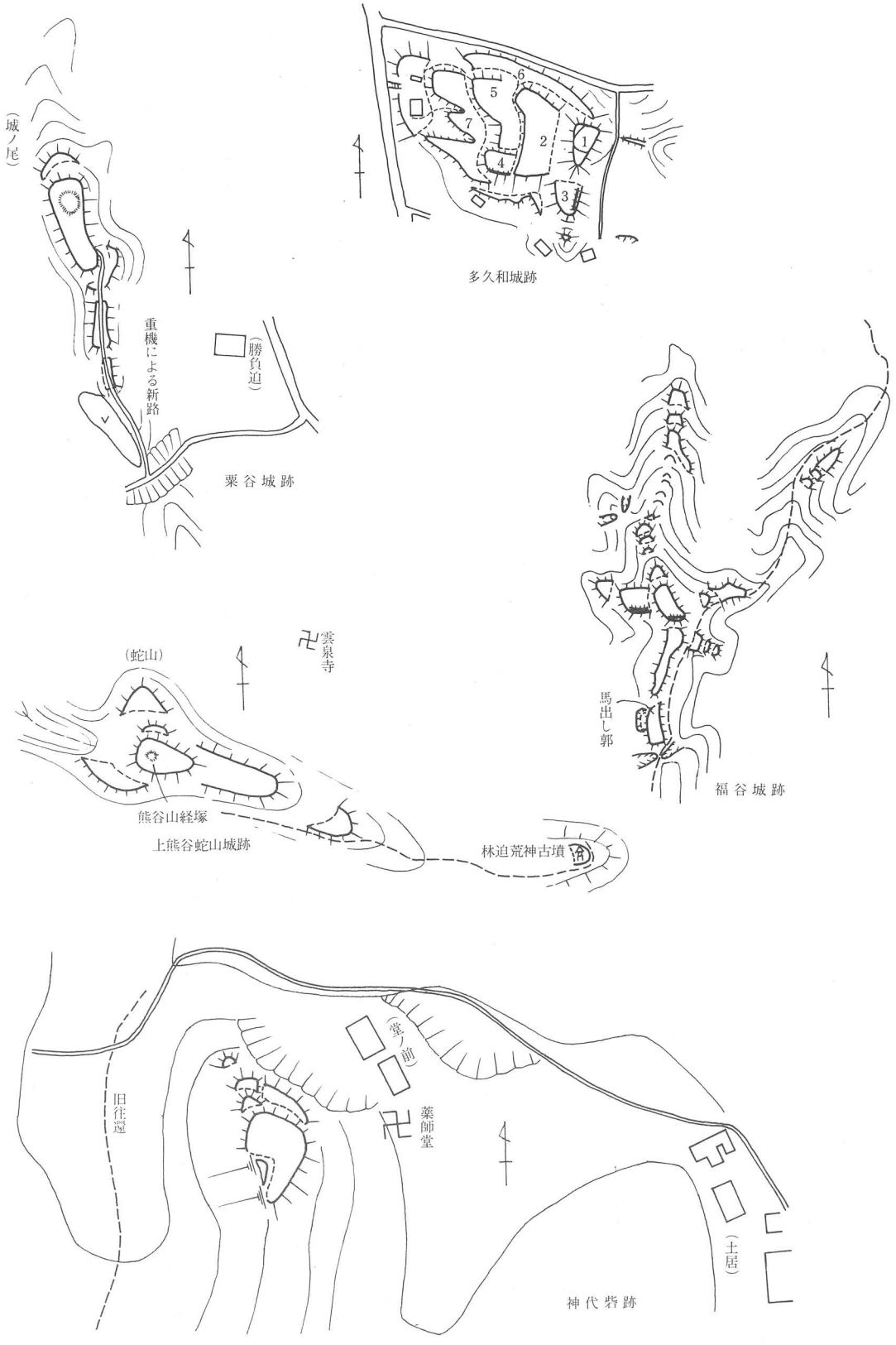

(城ノ尾)
重機による新路
(勝負迫)
栗谷城跡
多久和城跡
1
2
3
4
5
6
7
馬出し郭
福谷城跡
(蛇山)
雲泉寺
熊谷山経塚
上熊谷蛇山城跡
林迫荒神古墳
旧往還
(堂ノ前)
薬師堂
(土居)
神代砦跡

図7. 城砦見取図

ひく。室町期の城普請を思わせる。

皇国地誌に「村ノ南方谷奥山ハ重富伊賀守ノ城墟ナリト申伝フ…」とし、雲陽誌で「古城山　王子といふ」とのみあるのはこれを指すのであろうか。南北500m、東西300m比高は約150mである。

寺院跡：福谷城跡の北麓には玉正寺・瑞泉寺跡などの寺院跡が多く、森谷には法泉寺跡が知られる。法泉寺跡は山崩れでほとんど消滅しているが、その一連である宝篋印塔・五輪塔（図8）が残存している。これらの寺院は多くは江戸時代中ごろに廃絶したとのことである。

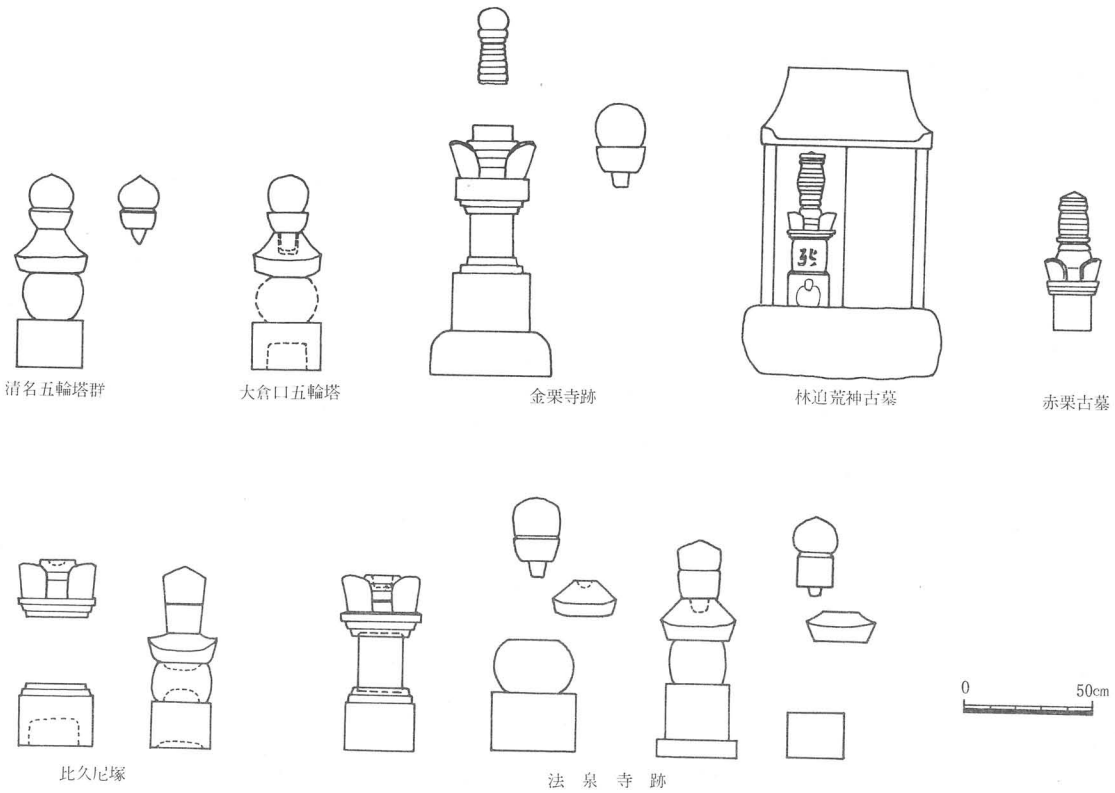


図8. 石　塔　図

森谷鈩跡：森谷の少し入った北側丘麓にかなり広範囲にわたって鉄滓の散布がみられる。近くには石造りの金屋子神祠があり初花銑が祀られている。炉壁材にはわずかながらスサの混入が認められる。中世から近世へかけての製鉄跡であろうか。

また森谷には〝鉄場〟などの地名や、谷奥には樋ノ谷鈩跡があるなど、近世には製鉄が盛んに行われたところである。

不動堂鈩跡：粟谷集落の中心部付近で、飯石川が三刀屋川に流入するあたりの西側山麓部

にあり、かつて付近に所在した〝大門寺〟の不動堂が建っているところである。ここはまたこの地の旧家である伊東家の墓地でもある。鉄滓は墓地下の段の畑に散布し、特に大塊の鉄滓も混在する石垣で段畑が拓かれている。炉壁材にはスサが混入している。鉄滓は錆があり近世のものより流動性が悪く、近世以前の鈩跡かと思われる。炉心位置は特定できなかったが、畑中に残存している可能性がある。

カナクソ鈩跡：飯石川の流末近く大きく迂曲するあたりの南側山麓にある。谷田の造成で鉄滓堆積部が切断堀削されて破断面がみえる。堆積層は幅8m厚さ50cmで鉄滓は赤錆びており、炉壁材にはスサが混入している。遺構は大部分が破損しているようだが、規模は小さく、近世以前のものとみられる。

3．中野地区

中野地区は、西の飯石郡掛合町佐中と東の木次町湯村との間にあたり、ほとんど並列する谷あいの集落からなる。

縄文時代についてみると、わずかに神代地内の川沿いで石斧の出土例があるのみで、その地点も現在では特定できなかった。また出土地がはっきりしないが六重地内には祭祀に用いられたとみられる山陰地方では珍しい石棒や石斧（図5）が古くから保管されており、近所の小堂祠には磨石類が奉納されていることが判った。山間のこのあたりは今後さらに発見されることが多い地帯であると思われる。

弥生時代では唯1点壺の破片（図14）が坂本の桧杉谷で畑から採取されていた。地点は明確ではないが、南西に面した丘麓部である。

古墳時代では、須恵器や土師器等の土器片が採取されたところを挙げると、西六重の水田地帯では須恵器が、中野の紙屋では水田下層に須恵器や土師器がかなり包含するとのことであり、須所では土居の畑地で、坂本では宮ノ前の畑地でそれぞれ須恵器や土師器の細片を新に採取した。これらの諸地点は概ね各集落の中心付近であり、これからも出土する可能性の高い地帯である。そして今日の集落の始まりを示唆しているとも言えるだろう。

この時代の墓地については、横穴は中心的集落である大字中野地区には、副葬品の豊かなものもあるなど数多く見られ、神代・六重にも散在するが、大字須所・坂本では知られていない。明確な古墳は未だ発見されていない。

中世の城跡は飯石と仁多を結ぶ東西方向の往還に沿って各集落ごとに見られるが、最も雄大で眺望の利くのは大字中野・六重にまたがる中野鳥屋ヶ丸城跡である。そして南の吉田村方面への分岐点に臨む六重城跡も整った城跡である。このほか須所では上口に志源京砦・下口には城ノ谷砦を配して中心部に須所八幡山城跡がある。神代には簡易な神代砦が

ある。

また集落近くには寺院の所在を示す地名も多い。六重の金栗寺跡は規模の大きな寺跡で、経塚や古石塔も残っている。これに向い合う丘陵端には修法塚であったとみられる策霊山古墓から石鉢・土師質土器・銭貨等が出土している。中野鳥屋ヶ丸城跡の西麓には麓館があったところと思われ、寺院の地名が所々にみられるが、遺構の特定は難しい。その中で久光寺跡からは礎石が出土し保管されている。須所では法華宗布教の拠点として著名な妙吉寺跡があり、後背の山頂に経塚が営まれている。坂本桧杉谷では荒神塚から修法に伴うとみられる埋納品が出土して保管されている。

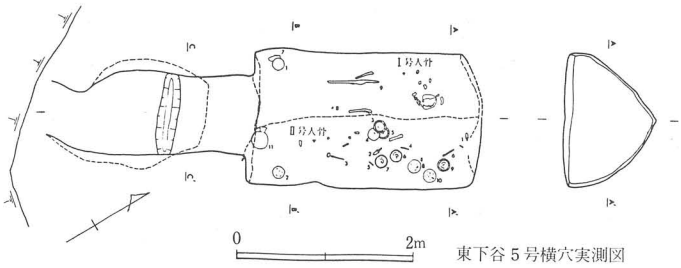
中野地区は古くから鉄生産が行われていたところで、文献では〝出雲国風土記〟に「飯石小川鉄あり」と記しているが、この奈良時代に比定されるほど古い遺構は未だ発見されていない。一般に製鉄跡（タタラ）の年代は判定し難いが、少なくとも近世以前かと思われるたたら跡が山間に点々とみられる。即ち、六重峠・桧杉谷鈩床・東下谷杉谷野鈩などがそれであり、近世とみられる規模の大きいものは大字六重・中野の各地のほか須所奥山本谷の群や、坂本の桧杉谷などほぼ全域にわたって認められる。

縄文時代遺物：大字六重の子安観音堂には縄文時代の磨石が数個奉納されている。出土地は不明であるが、おそらく六重地内での出土であろう。また祭祀に用いたと思われる石棒が乳棒状石斧とともに保管されている（図５）。石棒は関東には普通にみられるものの関西には稀れなものであり、島根県内では隣接の吉田村の１本と本例のみであろう。なお「中野村誌」によると大字中野でも出土したと記録しているが、現物は所在不明である。これらから吉田村・三刀屋町大字六重・中野を含む山間の一帯には未知の格別な縄文文化が存在したかと想像される。

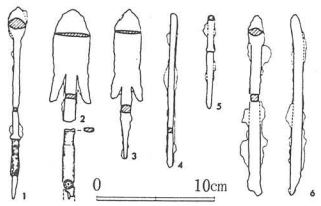
弥生時代遺物：中野地区内では弥生式土器の出土は唯一点のみであり、弥生文化の跡は稀薄な地域と思われる。出土したのは大字坂本桧杉谷であるが、明確な出土地点ははっきりしない。土器は中期の大型壺の頸部片１個である（図14）。

東下谷横穴群（図９）：古くから開口していた１～３号のほかに昭和58年道路改良に伴って４～６号が発見された。これらから人骨のほか須恵器・大刀・鉄器・玉類が多数出土した。特に４号穴の柄巻きや足金具のよく残った大刀をはじめ鉄製器が豊富なこと、６号穴では２組の夫婦とその子供とみられる重ね合せ葬等が注目される。土器からみて古墳時代後期から末期へかけての一集落の家族墓群と思われる。横穴は普通にみられる断面三角形妻入りの様式である。

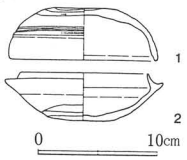
神代横穴（図９）：昭和42年畑地造成で発見。今のところ１基のみ。横穴は三角形の便化し

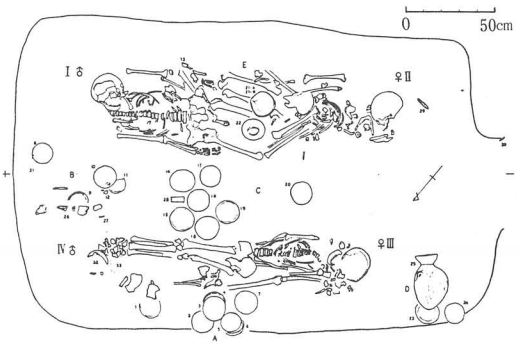


東下谷５号横穴実測図

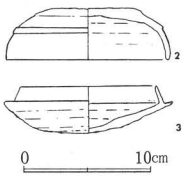


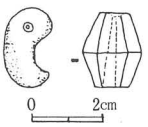
東下谷５号横穴遺物



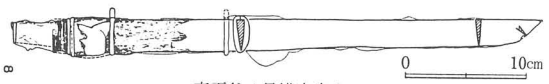


東下谷６号横穴



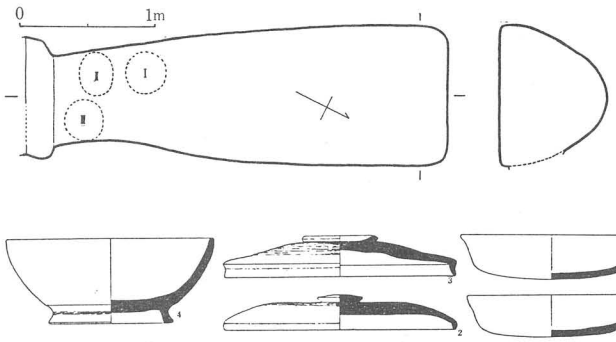


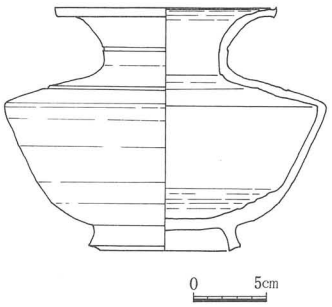
東下谷６号横穴遺物



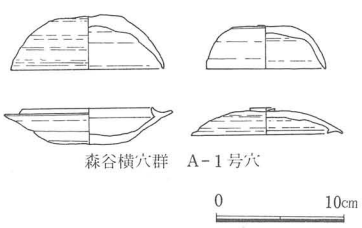
東下谷４号横穴出土

東下谷横穴群

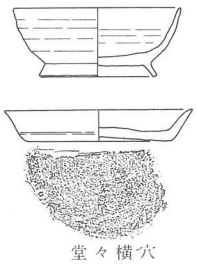




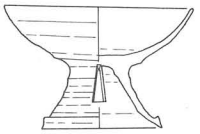
神代横穴



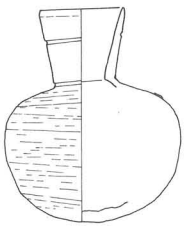
森谷横穴群　A－１号穴



堂々横穴



大神谷横穴



正蔵坊横穴

図9. 横穴・遺物図

たカマボコ形で平面プランも羨道部との区画が明瞭でなくトックリ形を呈している。副葬品には、蓋茶碗形の須恵器に高台が付き蓋は輪つまみの付くもの、丹塗り土師器坏、横瓶、高台付壺などがあり、奈良時代に入るころの時期である。

中野鳥屋ヶ丸城跡（図16）：大字中野・六重の界で、多久和にも近い高丘陵上にあり、標高415mの頂部を主郭とする規模の大きい城跡である。この城郭は尾根上に250×350mに及び、さらに南西へ比高150m以上下った麓館跡も包括すると、その城域は広大なものになる。大小60余の曲輪は主郭から5方向に派生する尾根毎の群からなり、主郭部はほぼ一巡する路によって区画される。この城跡には土塁は認められず、わずかに竪堀り1本がある。主登路は大字中野・紙屋からで、その他にも数条あるようである。

主郭からの眺望は特に良く、南・北方向は特に遠望できる。また出張り砦とみられるものとして字紙屋のトチノ木上砦が挙げられよう。このほかにも存在する可能性がある。このように中野地区内では格別規模の城跡で、典型的な室町期の山城である。

須所八幡山城跡（図10）：大字須所のほぼ中心部に位置し、土産神の宮山に続く比高約30mの独立小丘陵上にある。最頂部の土塁を築いた10×30mの主郭を堀切りで独立させ、北西麓部には掛合～三刀屋街道に面して高い土塁を巡らせた馬出し状の郭で大城戸を構えている。また稜線上を北へ土橋で宮山～八幡宮へと接続させている。南麓には〝門〟〝本屋敷〟の家号があり、現在は鉄穴流しで消滅しているが搦手を示唆している。大まかに中世末ごろの築造であろうか。主郭には現在子安社・大山社・社日が祀られている。

なお、須所下口にあたる城ノ谷には渓谷に向って張り出す丘陵端に、前後を大きく堀切りで区切られた砦郭がある。しかし昨今の道路敷設でその中心部分が大きく失われて

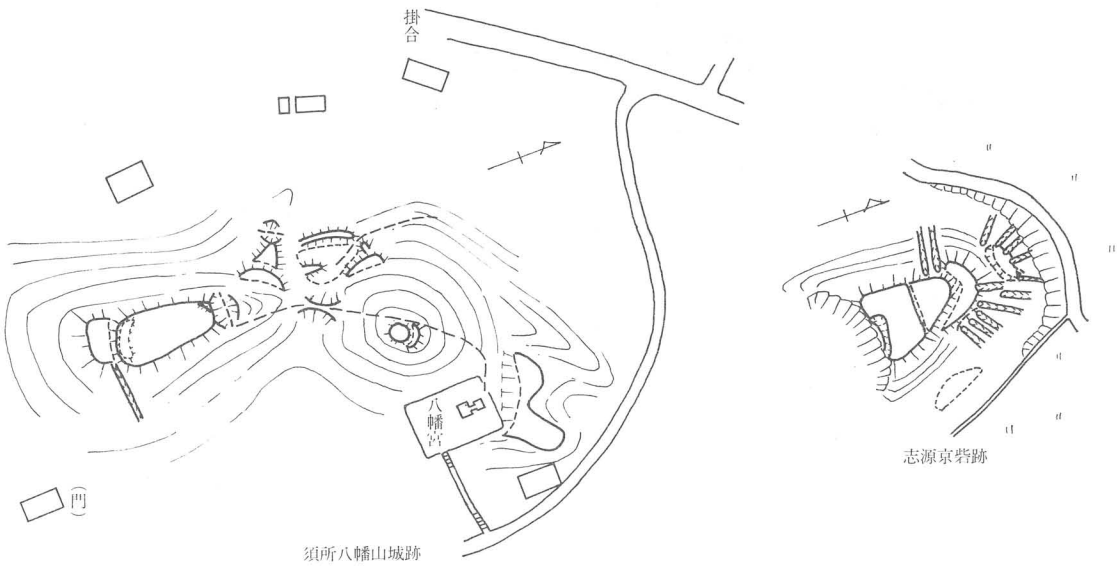


図10．城砦見取図

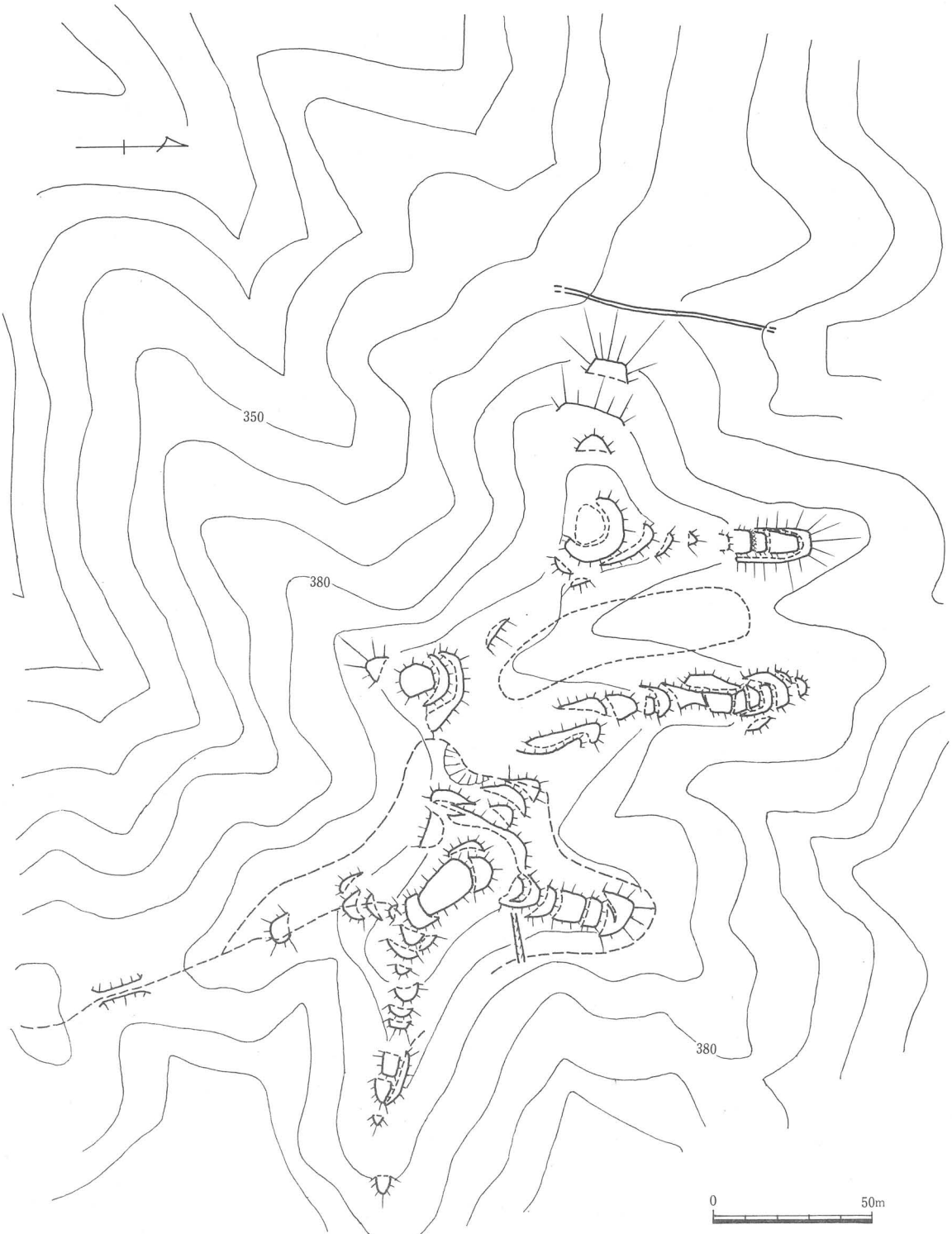


図11．中野鳥屋ヶ丸城跡縄張図

旧状を知ることができない。この砦跡は上記城跡を中心とする須所の下口の防備とみることができる。同様に上口の砦は下記のように志源京砦が相当するものである。

志源京砦跡（図10）：掛合町西谷から須所への通路が丘陵端で迂曲するところの稜上にあ

り、比高約30m である。頂部から後背（南）部分は後世の鉄穴流しで大きく抉り取られており、先端（北）部３段の郭を含む約40m しか残存しない。この砦跡の最も特徴的な点は多数の竪堀りが13本射出している。岩石や丸太切を投下すれば今日でもその威力は大きいものであろう。須所上口の防備に相当する。

六重城跡（図12）：六重集落へ北東に向って張り出す低丘陵上にある。麓の往還は南へ峠越しで吉田村菅谷へ、南東へ粟谷を経て仁多郡へ、西は中野を経て掛合へ、北は下って三刀屋への辻にあたる。最高所の主郭群と派生する尾根上の東郭群・北郭群がほぼ馬蹄形をなし、それぞれ堀切りで独立している。南麓台地には殿畑の地名があって居館位置を示唆する。副郭群の頂部にはそれぞれ北西に面して土塁が認められ、主郭群北西には短い竪堀りが３条と堀溝１条がある。比高約40m のこの城跡は主として北西～北東への構えとなっている。戦国期以降の城であるようだが、将名等は文献上には見当らない。

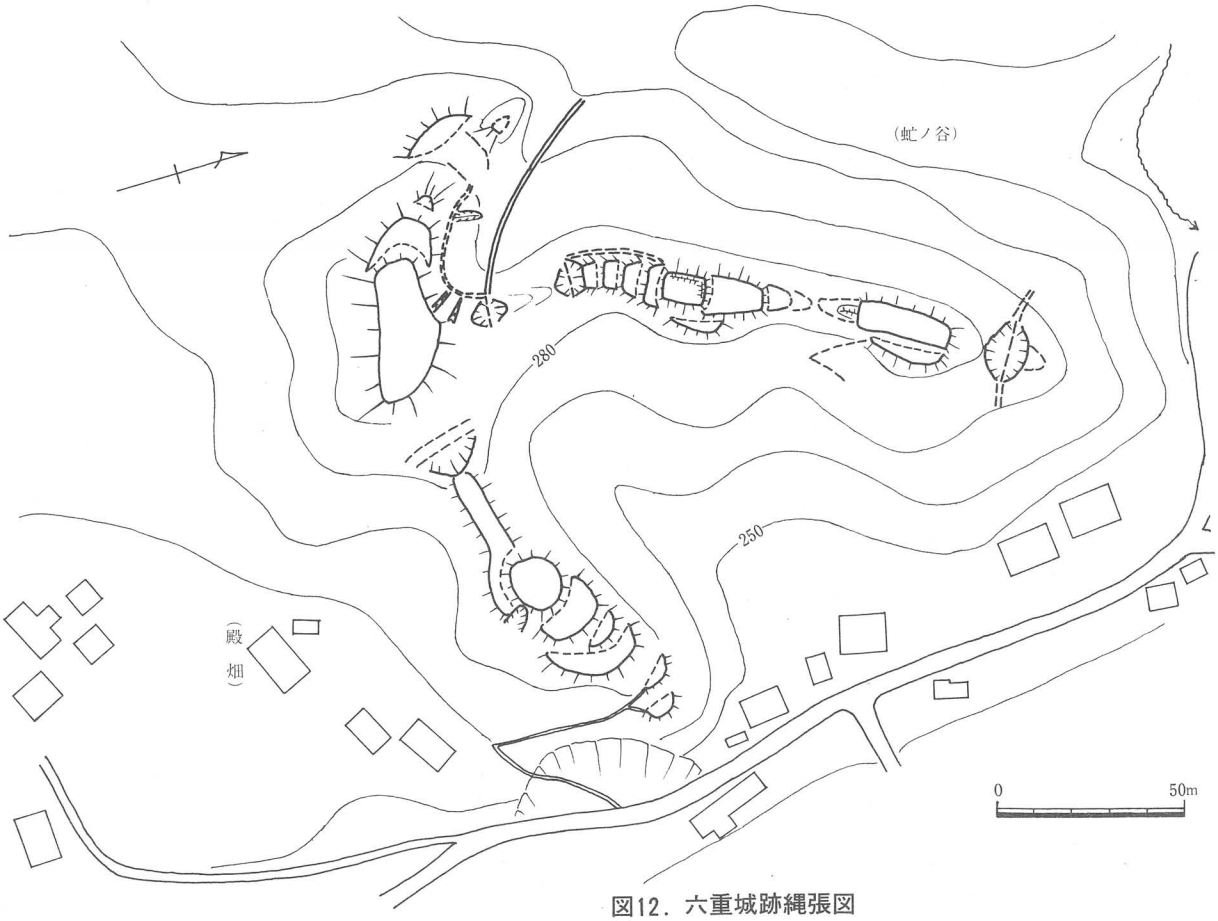


図12．六重城跡縄張図

金栗寺跡（図13）：東に面した山腹部で中央へ参道が上る。北隣の小谷奥に五輪塔・宝篋印塔多数散乱する古墓があり、奥まって４×2.5m ほどの一石経塚がある。寺伝によると、

現在多久和に所在する寿福寺の元の位置で、12坊もあったとしている。さらに六地蔵・観音堂・稲荷などがあり、大門には仁王門があったとのこと。これを約400年以前に多久和へ移したと言い伝えている。

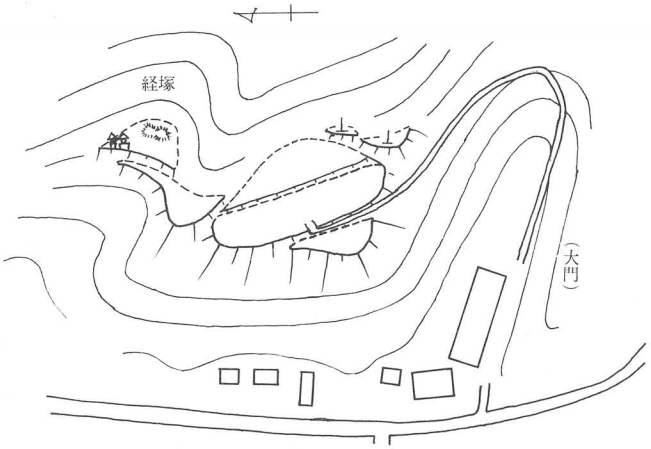


図13. 金 栗 寺 跡

妙吉寺跡：須所八幡山城跡に対位して所在し後背三面を低丘陵が囲む。80×60m の敷地跡には本堂等伽藍の礎石が草の間にみられ、今では記念碑が建っている。西へ30m には稲荷社があって須所八幡山城跡の乾（いぬい）の方角に当ることから城の裏鬼門として祀ったものとみられる。

寺後背の丘陵上には一字一石経塚があり、今でも信仰の対象となっている。なお、この妙吉寺は中世出雲地方での法華宗弘道の拠点の一つとして著名な寺院である。

久光寺跡：中野鳥屋ヶ丸城跡の南西麓にあり、地名として遺る。寺跡は現在は畑地で、付近に小堂が祀られている。かつて畑地から柱礎の礎石（図版４）が出土して保存されていて柱穴は直径17cmを測る。この近隣には現在も正蔵坊がありまた小堂等が点在する。

比久尼塚（図８）：須所・中野間の小さな峠付近にある。山麓の緩斜面になるあたり、５×７m の小削平地に老杉樹を標樹とする五輪塔・宝篋印塔の古墓である。口碑に付近にあった比久尼寺の尼の墓と伝える。

広ノ下荒神塚（図14）：桧杉谷を約300m 入って道路が迂曲するところに張り出す低丘陵の基部にある。山腹にかつて巨木３本を標樹とする三宝荒神が祀られていたところで、農用の採土中に発見したもの。厚い黒色土中で石鉢を伏せて下には鎧の大袖・土師質土器・宗銭が埋納されていた。銭貨からみて中世後半期ごろの修験者の手になる修法塚であったと考えられる。事例の少い中世の塚の好資料といえよう。

類似する事例として六重策霊山では石鉢・土師質土器・銭貨・鉄片等が出土している。

的場積石塚：坂本神社の後背丘陵最頂部で、掛合町との界に近い位置にある。わずかに削平したかと思われる平地に、25～30cm程の川原石を直径５m 高さ1.3m 円墳状に積んだもので、５m ほどのところを堀切りで切断区画している。地元の人々はこれを中世に弓の的としたものであり、よって的場と呼んでいる。経塚かとも思われるが未詳。

堂々釿跡：中野の南奥・吉田村境に近く浅く広い南に開く小谷の正面奥。小尾根裾に位置

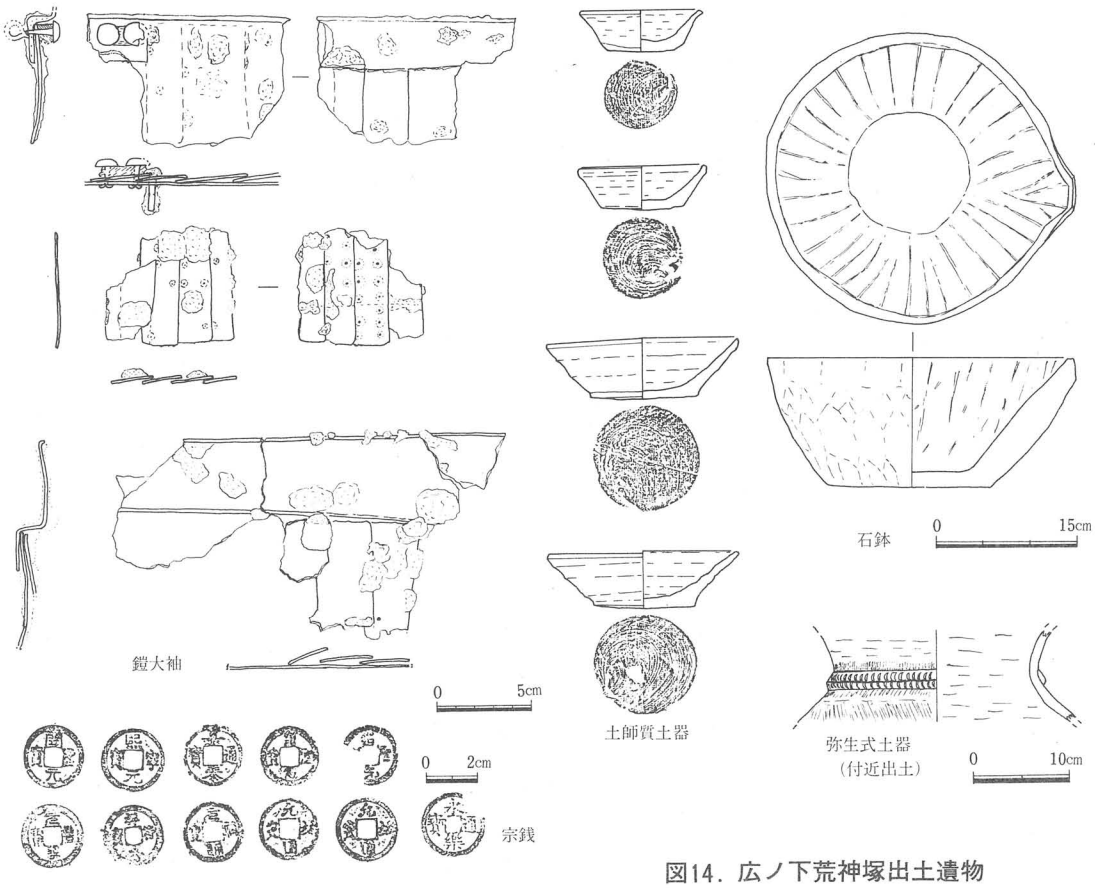


図14．広ノ下荒神塚出土遺物

し、鉄滓の散布範囲は70～100m ほどにも及ぶ。炉床中心部付近は約40×20m ほどで、鉄滓塚と1.1×1.1m 厚さ30cm余の大ケラ塊が放置されている。傍に金屋子神木の榊があり、尾根上方には山の神の槙木がある。口伝によると明治初年には操業されており、産鉄は吉田村菅谷の鈩場へ運ばれたとのことであり、近世末から近代に至る規模の大きい高殿鈩であった。

奥山本谷鈩群：須所の南奥、掛合・吉田村境に近い深く狭い谷奥で、谷間に近く左右の削平段に２か所以上所在する。また中途から南西に分かれる小谷にも鉄滓の散布するところがあり、都合３か所に及ぶ炉床位置が想定される。いずれも現状は山林であり、渓流の中に大小多数の鉄滓や炉壁材がみられる。規模はさほど大きくはないようであるが、かなり長期にわたる操業が想像され、近世の所産と思われる。

六重峠鈩跡：大字六重・中野の峠頂部の西側で畑や作業小屋のあるあたりにある。鉄滓や炉壁材は極く小さいものがほとんどで散布範囲も広くない。炉壁材にはスサの混入が認められ、規模は小さく、操業は中世に遡る可能性がある。炉床位置は上段の小屋の建っているあたりと思われる。

桧杉谷鈩跡・桧杉谷鈩床鈩跡：桧杉谷鈩は道路沿い西側上段の畑地で、丘麓に幅20m 長さ

50m の範囲である。道路によって切り取られた崖面とその上方に夥しく鉄滓が散布している。炉壁材の木呂穴間隔は約12cmで近代のそれに近いものである。

桧杉谷鈩床鈩は中野川の大きく迂曲するあたり、川の南側に突出する丘陵端にあり、一段と高位な畑地の前方崖面に細かい鉄滓が約20×20m にわたって多数散布する。炉床は山裾近い畑地の中であろうか。規模は小さく野鈩様式かと思われる。なお、この鈩床から小麦越しの山路が通じている。

金蔵鈩跡：六重から南へ吉田村菅谷への往還に瘤状に張り出す台地上に位置し、現況は水田となっている。かつてこの道路沿い約70m にわたって夥しい鉄滓の堆積層が見られたが、道路改良で崖面には見られなくなった。炉床は上の水田部分とみられるが位置は特定できなかった。隣接する民家の家号は〝金蔵〟と呼び、一帯が山内であったことを示唆している。規模の大きい近世たたらで、吉田・菅谷高殿との関連が想像される。

遺跡数集計表

※(　)内は既知の遺跡数

一宮地区

大字	散布地	古墳・横穴	城砦	古墓	製鉄遺跡	寺社跡	その他	計
高窪	—	3 (2)	3	4	1			11

飯石地区

粟谷	3 (2)	3 (3)	1 (1)		4 (2)	1	1 (1)	13
多久和	10 (9)	5 (5)	5 (3)	2 (1)	7 (7)	4 (2)		33
上熊谷		2 (2)	2	1 (1)	2 (1)	1	1 (1)	9
計	13 (11)	10 (10)	8 (4)	3 (2)	13 (10)	6 (2)	2 (2)	55

中野地区

神代	1 (1)	1 (1)	1		2 (2)			5
六重	1 (1)	2 (2)	1	1	6 (6)	1 (1)	1 (1)	13
中野	1 (1)	3 (2)	3	2	5 (2)	1		15
須所	1		3 (1)	1	2	1 (1)		8
坂本	1				2 (1)		2	5
計	5 (3)	6 (5)	8 (1)	4	17 (11)	3 (2)	3 (1)	46

中野村小字名地名

田

深坪，高あせ，すミた，高あせ，みろく前，いのおく，中屋，妻田，つまだ，つまた，原田，川はた，前かちや，橋詰，新屋，中新ヤ，かうじ谷，せと，中ノ原かと，中ノ原家廻り，南谷，南谷奥，そね田，原田，かちや田，上さこ，藤畑，ひへ畑，ふか田，大夫谷，たわ，西ノさこ，金くそ，後谷，そらすてこ，北畑，下平，ふちノ上，下平せうし谷，せうし谷，かと田，奥田，かと田，中原，よこやの前，椿田和，かと田，東神田，ひやけ田，鉄穴下，そね田，吉ら田？，こさこ，八斗田，石仏ノ前，寺ノ前，紙屋かと，紙屋前，寺ノ前，かみ屋，北田，かみや，ひの宮，榎かつほ，はまた，高あセ，中田，栃木，京田，深坪，道ノ下，中ノさこ，道より，上さこ，ふろの下，道の上，ととろき，かと田，上新屋，田の奥，柳田，六重垰，大木さこ，のいのさこ，よねさこ，岡，ねんさこ，おちい，中村，いかつち，松本前，家ノわき，とうとう，とうとうさこ，石川原，山崎，すきさこ，なしの木さこ，家ノ前，寺田，神田，大さこ，神子谷，石田，三百田，一貫弐百田，八百田，道はさみ，家さこ，万田，清水田，まと場，みやも田，かちや堀，よした，神田，道ノおく田，家ノ前，さこかしら，柳田ノそら，家ノ前，やなき田，屋しき田，きのすかいち，清水尻，清水田，寺ノ前，川本，くるま田，あら堀，下五百，宮田，高あせ，かねか谷，かねか谷おく，はん田ノかしら，志やういさこ，はんノ田、弐百しり，深坪，高あせ，志やふさこ道ノ下，寺さこ，くらはし，二久保田，けら二久保田，そらしやう，あら田，山崎田，椿ノ下，前田，家ノ脇，高あせ，中田，中た，志かつほ，小森目，さそう，さそうノ上，さそう，さそうの奥，四百田，深坪，梅ノ木さこ，深坪さこ，はん田，はん田さこ，清水かつほ，三斗まき，三斗まきさこ，苗代田，二ノ谷，一ノ谷，さるかう，たわ田。

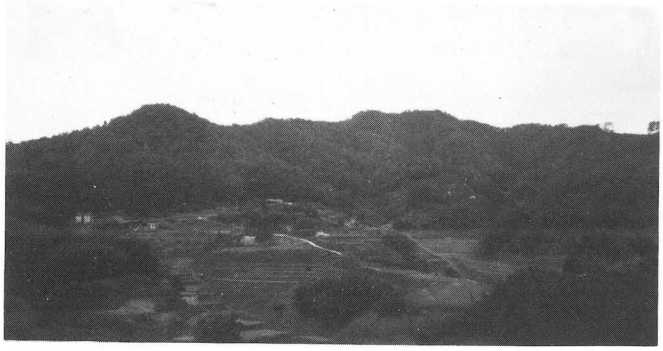
畑

たわ，かなくそ，八まんノ上，八まんノ下，屋敷余り（蔵敷共ニ），下平，そらのだん，家のおく，こしまい，家廻り，きやう天，屋敷余り，家ノ下，家敷余り，神子谷，石田，屋敷余り，中竹，家廻り，下平，九日いち，くらはし，中原，すてこ，大さこ，小迫，田中，さかへ，寺ノ向，三百田，小屋ノたん，ほそ畑，かみや谷，風ケたわ，道ノ奥，かまのいと，家ノおく，家廻り，金穴，家ノ前，柳田ノ頭，長畠，井手上，かねケ谷，半ノ田平，かねケ谷，細工畑，常木庵，家廻り，きふね，西ケいち，家廻り，けらの内，家ノ上，金くそ，藤畠，蔵橋谷，志やうケさこ，鉄穴内，やはら，むかい，てんむら，山崎家ノ下，山崎，清水尻，屋敷余り，横屋ノ上，屋敷余り，寺ノ下，寺ノ脇，寺ノ廻り，屋敷余り，向かうし，中かうし，かこや，北田，ひの宮，屋敷余り，いかつち，松本，鉾床，いし田，さくれ，川はた，荒神平，土井ノかと，屋敷余り，まと場，的場，鍛冶屋堀，神田，光神平，屋敷余り，西かいち，寺ノ脇，寺ノ前，おちい畠，家ノ脇，屋敷余り，川本，椿たわ，川はた，屋敷余り，さそう，こかはひら，ひのたわ，三斗まき，五斗まき，林ノ後，さそう，家ノ前，屋敷余り，さび谷，中やの前，権現ノ前，屋敷余り，屋敷廻り，屋敷余り，中新屋，滝しり，中屋，せと，屋敷余り，かなくそ，大谷，屋敷余り，坂本境，うね，小川，せうし谷，家廻り，流畑。

その他

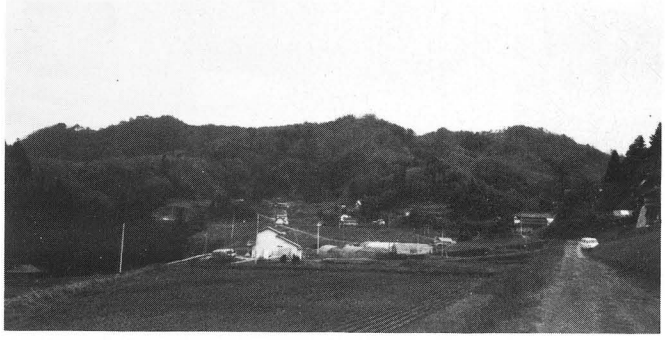
権現宮床，地蔵堂床。

「文久２年　中野村御検地帳写」より



中野鳥屋ヶ丸城跡

鳥屋ヶ丸城跡より西を望む

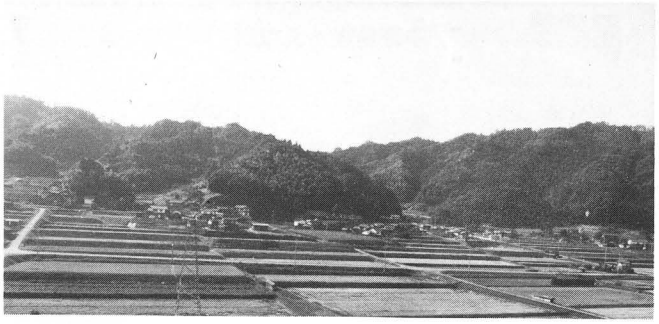


福谷城跡

多久和城跡

清名砦

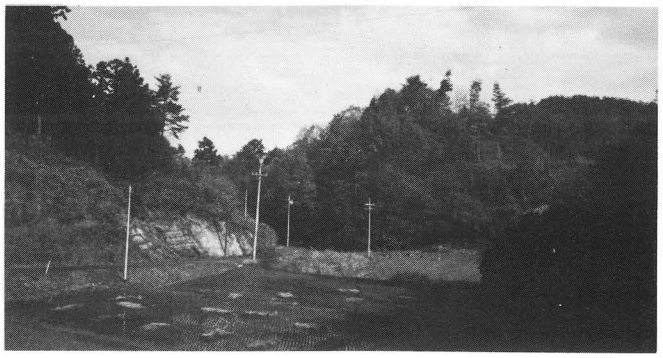
粟谷城跡



上熊谷蛇山城跡

六重城跡

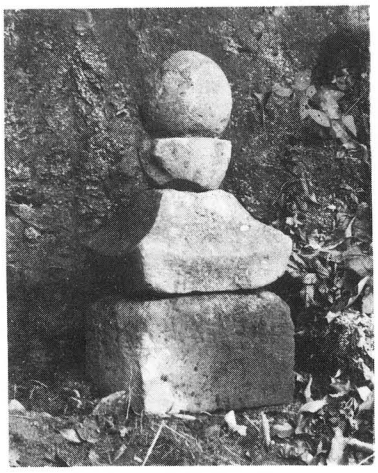
須所八幡山城跡



志源京砦跡

金栗寺古墓

比久尼塚



大蔵口五輪塔

法泉寺古墓

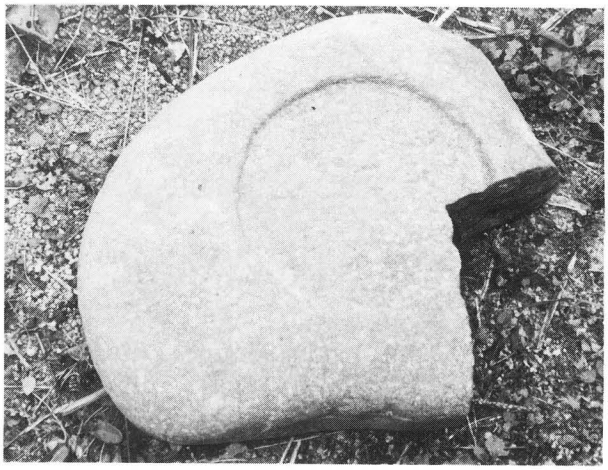
清名五輪塔群

林迫荒神古墓

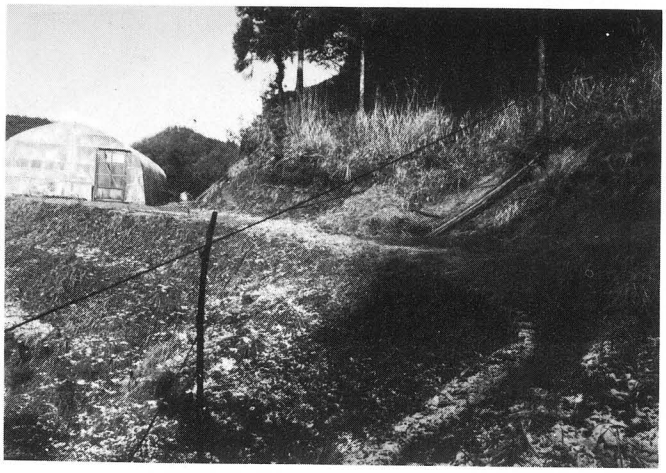
的場積石塚

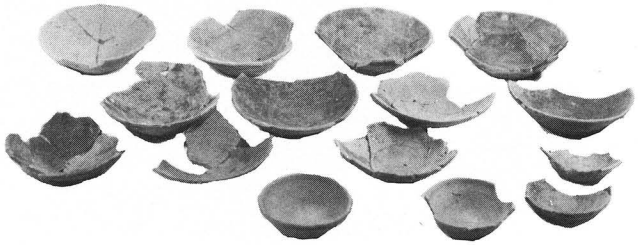
善王寺跡

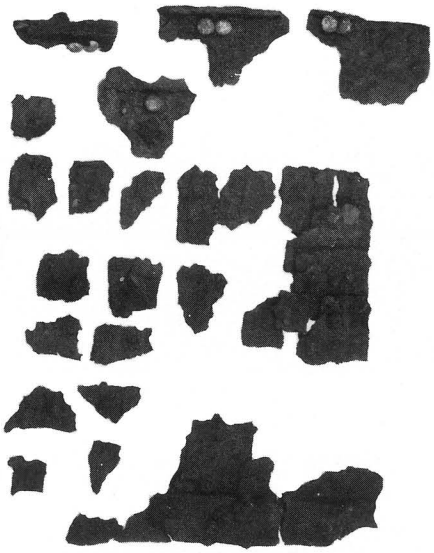
妙吉寺跡

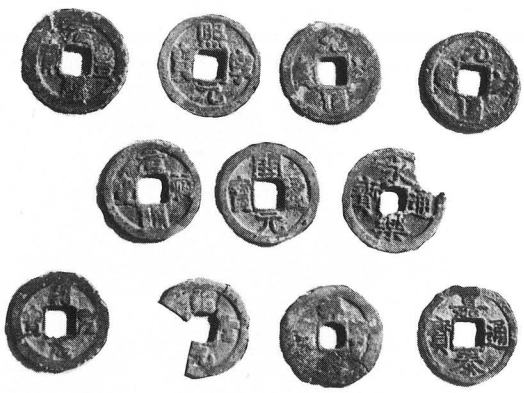


久光寺礎石





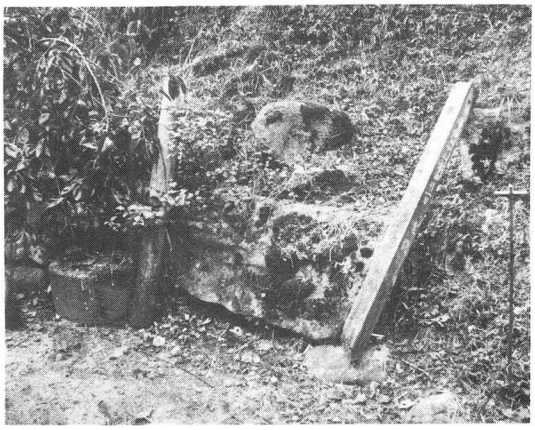




坂本・広ノ下荒神塚

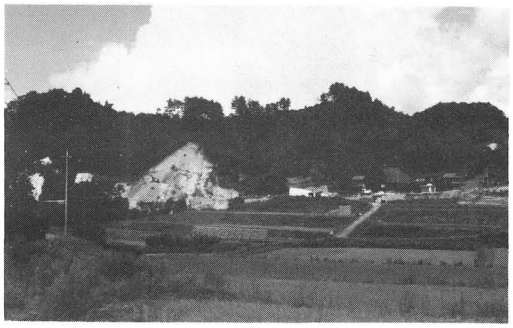
古殿今宮古墳

古 殿 古 墳



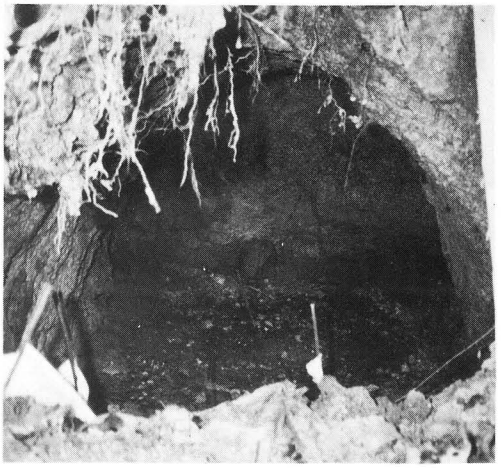
岩 広 古 墳

粟谷横穴群

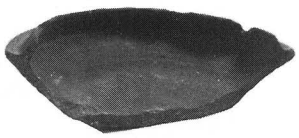


東下谷横穴群

大倉口横穴



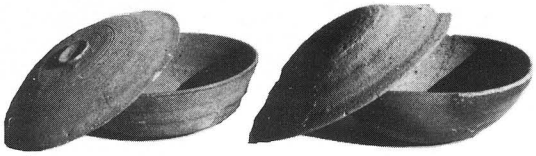
神 代 横 穴

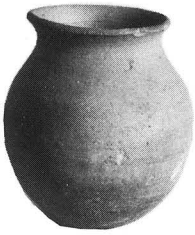


大神谷横穴

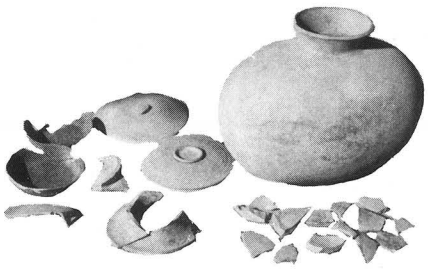
堂々横穴

飯石神社上遺跡

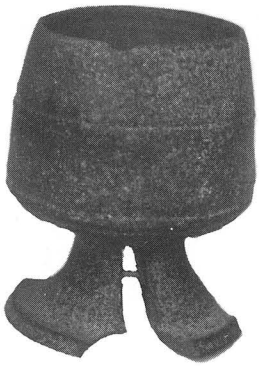


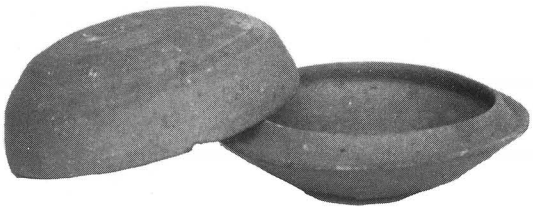


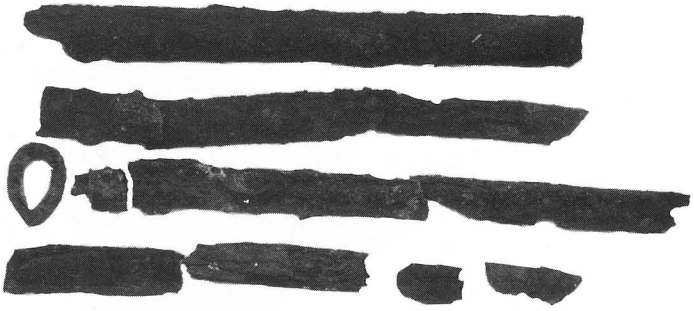
森谷古墳群 A 1 号墳



神代横穴







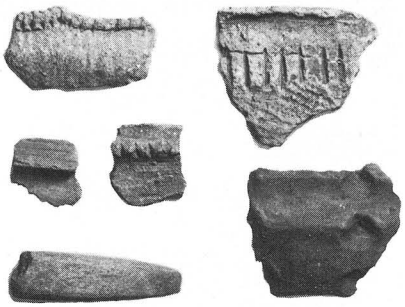
岩広古墳

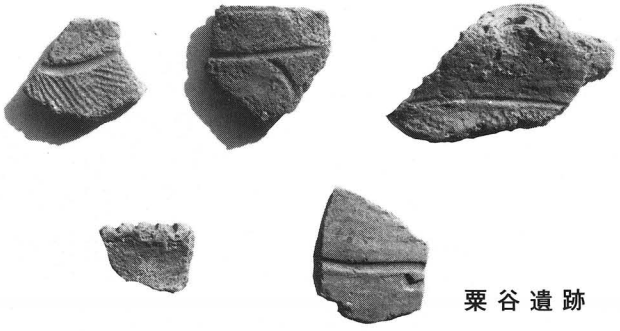
宮田遺跡

粟谷遺跡

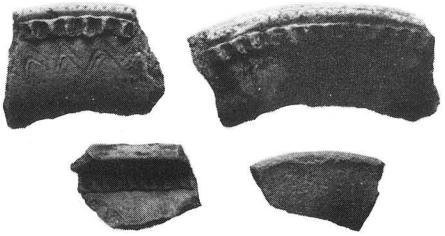
坂本宮ノ前遺跡

古殿遺跡

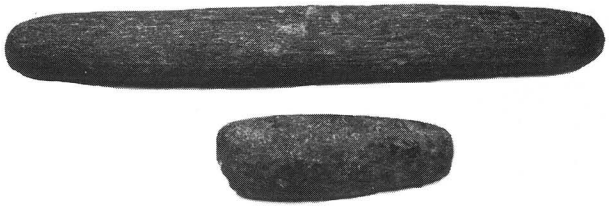




粟谷遺跡



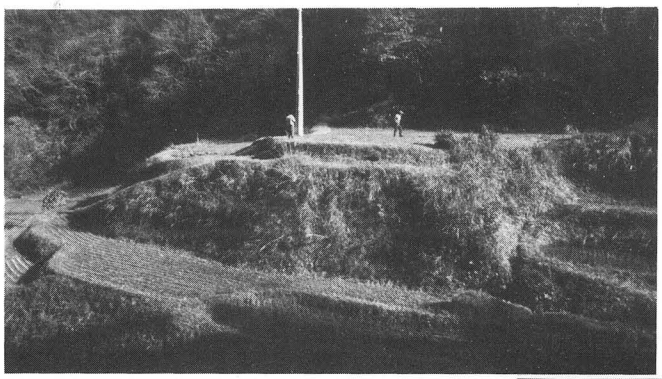
宮田遺跡



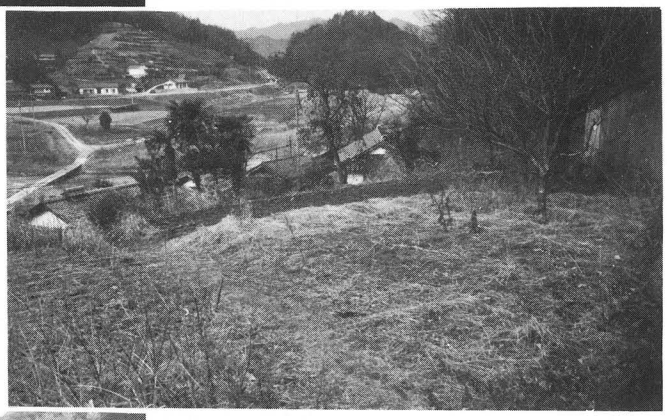
六重の石棒

粟谷遺跡 製塩土器

湯舟遺跡



桧杉谷鈩床鈩跡

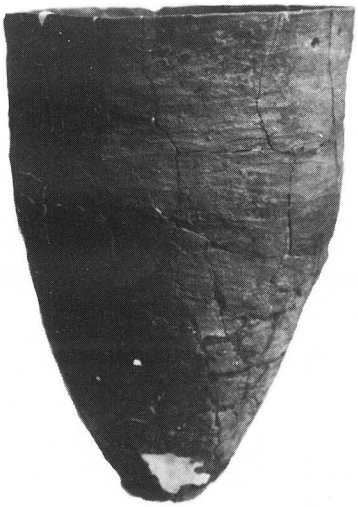


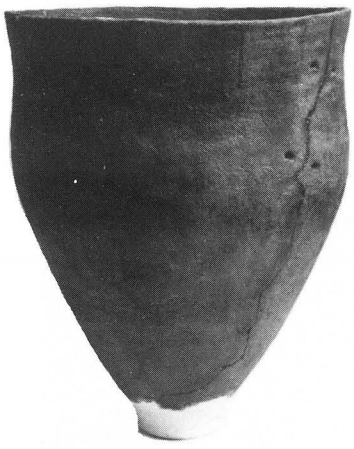
不動堂鈩跡

真砂谷鈩跡

堂々鈩跡（ケラ塊）

奥山軍鈩跡





県指定：宮 田 遺 跡

詳細分布調査報告書

三刀屋町の遺跡 Ⅱ

— 飯石・中野地区 —

発行　1989年3月21日
三刀屋町教育委員会
飯石郡三刀屋町三刀屋

印刷　(有) 木次印刷
飯石郡三刀屋町三刀屋